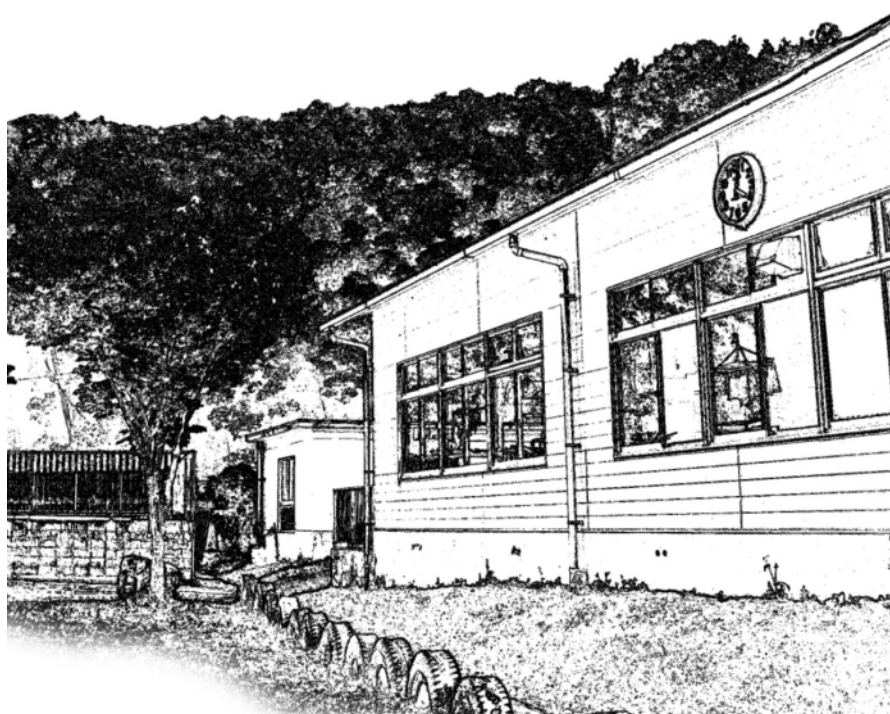


高等部 公開授業資料



時間：10時40分～11時40分

場所：「紙工班」紙工室
「木工班」木工室
「窯業班」窯業室、窯業棟
「農芸班」畑班 晴天時：玄関前農場
雨天時：農芸作業棟
花班 農芸作業棟

平成23年度熊本県立天草養護学校研究発表会

高等部では、生徒のほとんどが最後の学校生活として3年間を過ごしている。高等部の生活がより楽しく充実した、思い出に残るものになるように心がけるとともに、3年間かけて学校中心の生活から、地域の社会資源へつながり、それぞれの生徒に合った「働くこと」を中心とした生活が始まることを意識しながら日々取り組んでいる。

キャリア教育の取り組みを始めて3年が経つが、この期間は、今までの高等部の教育内容を全員で見直す好機となった。

以前は授業内容や課題設定に関する根拠が曖昧な点が見られていたが、取り組みを始めてからは、本校卒業生の様子や天草地域の実情などをふまえ、将来の生活に向けて今必要な教育内容は何であるかを積極的に意識するようになってきた。つまり、目の前の課題が「できない」から取り組むのではなく、「必要だから」という柱をもとに授業を組み立てるようになってきた。生徒一人一人のねがいや、それを実現するための手だてが、より具体的で根拠のあるものへとようになってきた。

毎年の高等部職員の入替わりがあるが、学年単位、作業班単位で各生徒の「必要感」について協議する時間を定期的に確保し、実践の足並みをそろえるようにしている。

さらに、高等部は年に2回の現場実習を通じ、学校生活と社会生活の違いを肌で感じる貴重な機会としている。実習先が進路先に直結するという特性を常に意識しながら、日々の教育内容や手だてについて保護者とも連携しながら取り組んでいる。またその手だてが有効であったかどうかを、支援者間で振り返ることも大切にしている。

作業学習

本校高等部での作業学習は、「物を作る（育てる）楽しさや仲間と協力して仕事をする喜びを味わいながら、社会参加・社会自立に向けた積極的な態度や自信を身につけてほしい」とのねがいで、高等部教育課程の中心活動として取り組んできた。キャリア教育の取り組みが始まり、作業学習においては以下の二点が変化としてあげられる。

一つめは、「意欲面・態度面の充実」である。卒業後の新しい環境の中で、生徒たちが自分の居場所を見だし、「やりがい」を持って「働き続ける」ためには、生徒たちが、働く一連の活動に対して前向きな考えを持つことが大切であることを常に念頭に置いている。具体的には、自分の活動が周りから感謝される場面、作業の中で大切な役割を担っているという自覚、できるようになってうれしいと思う気持ち等、「人の役に立つ」「人から必要とされる」「人からほめられる」といった、働く喜び・幸せを感じられる場面を授業の中で意識して取り上げるようにしている。このことは、全ての生徒が意欲を持って取り組むための大切なことと捉えている。作業日誌等で自己評価を強化したり、自分の作業中の態度をビデオを使って客観的なフィードバックを行ったりと、支援に新しい工夫をする場面も出てきている。以前から作業学習の中で大切にしている、作業に取り組む際の望ましい姿勢、要求に合う正確な作業、質の高い製品作りと両輪で進めるように今後も取り組んでいきたい。

二つめは、「具体的な目標設定」である。「～を理解する」「時間いっぱい活動する」等、抽象的で曖昧な目標ではなく、具体的な製品の目標個数や誰に何と報告する等を示し、誰もが評価しやすい具体的な行動目標を設定するようにした。そうすることで、他の支援者や家庭との共通理解を図りやすくなり、作業学習で学んだことを学校生活全体や家庭生活において補完、促進するためのつながりをより意識するようになってきた。

ステップアップタイム（総合的な学習の時間）

「ステップアップタイム」とは、昨年より始まった総合的な学習の時間のことで、毎週木曜日、各学年、クラスにおいてグループ別の進路学習を行っている。内容は一人一人の生徒の卒業後の生活を意識したものとなっている。3年間を通じて段階的に学習ができるように、学習内容の一覧表を見ながら、各グループで1年間の計画を立て、個別に対応した職場見学や調べ学習、実習などを行い、個々の課題解決や経験の拡大を狙っている。今までこのような進路学習は各クラスで行ってはいたが、各学年で内容が重複するなどの、系統性に関する課題が解消された。また実態別にするすることで、より焦点を絞った教材選定ができるようになった。

今後は学校と社会の温度差を支援者が的確に把握し、個々の生徒のニーズにあった日々の教育内容を吟味していくこと、また、本人が現場でやりがいを持って活躍できるための手だてを効果的に移行先へ伝えることが今後の課題である。

天草地域の社会資源には数に限りがあり、各施設ともに定員は満たされつつある状況である。生徒数は増加傾向にあり、今後の進路先を確保するには、一般企業へつながっていく必要がある。そのことも全職員で共通理解しながら、日々の教育活動に取り組んでいきたい。

平成 2 3 年度 高等部「作業学習（紙工班）」指導案 単元「天養ふれあいバザー」

日 時 : 平成 2 3 年 1 2 月 9 日 (金)
1 0 : 4 0 ~ 1 1 : 4 0

場 所 : 作業棟紙工室

生 徒 : 9 人 (1 年 3 人 2 年 2 人 3 年 4 人)

指 導 者 : 教 諭 井上かおり (T1) 講 師 大崎洋子 (T2)
講 師 森田小都恵 (T3) 講 師 高本 健 (T4)

本日の授業について

3 学期の「天養ふれあいバザー」に向け、はがきやメモカード、レターセットなどの手漉きの紙製品作りに取り組んでいます。製品の種類は生徒一人一人が「作りたい」「挑戦してみよう」と選択したものです。2 学期後半になり、これまでより紙漉の技術、スピード、デザインの向上も見られてきました。また、作業に集中する時間も長くなってきています。

本時は、生徒一人一人が自分たちで立てた目標に向かって製品作りに取り組みます。集中して、時間いっぱい取り組めるよう生徒に合った作業内容や道具や補助具の工夫、支援の在り方についてアドバイスをいただきたいと思います。

熊本県立天草養護学校

1 単元「天養ふれあいバザー」

2 単元について

(1) 単元について

<今年度の「かみ屋」メンバー>

生徒9人と教師4人でスタートした今年の紙工班。2,3年生の中には昨年から継続して紙工班を経験している生徒もいるが、ほとんどが初めての経験である。特に1年生の中には、毎日の登校が難しい生徒や、紙漉きの手順が分からず不安になる生徒など様々で、全員が紙工室に揃わないこともあった。そこで、できることを少しずつ増やし、手順を分かりやすく提示する工夫や、学級担任と相談しながら得意なことを取り入れる作業内容に心がけてきた。それと同時に、学級での継続的な登校支援により、次第に出席率が上がり、全員で作業に取り組めることが増えてきた。今では、学年を越えたかかわりが広がり、笑顔もたくさん見られるようになっている。

<次の「天養ふれあいバザー」も完売するぞ！>

1学期の販売会は、初めて接客を経験する生徒もいて緊張感が伝わっていたが、自分が作った製品が次々と売れるうちに笑顔が見られるようになってきた。販売会当日は午前中で完売することができ、喜びと満足感を味わうことができた。続いて「天養まつり」の販売では、大きな声と笑顔で「いらっしゃいませ」と呼びかける生徒や、会計、接客、商品渡しなど、積極的に販売を行う生徒の姿があり、販売の楽しさ、売れる喜びを更に感じる事ができた。この時も午前中で全ての製品を売り上げることができた。「目標売上達成」「完売」という言葉が生徒たちの中にも定着し「これまでよりも早い時間に完売したい」「売り上げの新記録を作りたい」など、次の販売会へ向けての意気込みを聞くことができた。本単元でも、最初に目標売上金額の設定やカウントダウン表の作成などを行い、計画に沿った製品作りに取り組む。今年度最後の販売会に向けて、一人一人が心をこめて製品作りを行い、全員で協力して「完売」を目指す販売会としたい。また、販売会後には「反省会」を実施し、お互いのがんばりを認め合うことで、次年度の作業学習や働く意欲(勤労観)を高めるようにする。

<集中して、心をこめて>

1学期当初、班のメンバーで意見を出し合い「集中して心をこめて一致団結がんばるぞ!」というスローガンを掲げて取り組んできた。特に「集中して」「心をこめて」取り組めるよう、個別の指導計画を基にした、個人目標を立て取り組んできた。作業が進むにつれ、注意力が途切れ私語が出たり、デザインに凝りすぎて時間が足りなかつたりする生徒も出てきた。そこで2学期からは、目標をより意識できるように一人一人にホワイトボードを用意した。そこには「ハガキを 枚漉く」といった紙漉の目標枚数や「必要以外、私語をしない」「 枚できたら報告する」「優しく丁寧に押さえる」など仕事に必要な態度をできるだけ具体的に記入する。作業開始時に一緒に確認したり達成できた場合は「 」をつけ賞賛したりすることで、常に課題を意識できるようにする。また、うまくできた自分に自信をつけることで「もっとたくさん紙漉がしたい」「次は に挑戦しよう」といった意欲へ繋げたい。

<人の役にたち、必要とされるように>

製品にあたっては一人一製品とし、「紙漉 加工 袋入れ」の流れで行うため、個人が黙々と作業に打ち込むことになる。一方で、紙漉に必要な「パルプ作り」は「パック切断 ラミネートはがし パルプちぎり」など生徒に応じて得意な工程を担うことにしている。最初は自分の仕事を淡々とこなしていた生徒も、次の工程の人に「 さん、おねがいします」「ありがとうございます」と声をかけたり、かけられたりするようになってきた。このように個人の目標を達成するだけでなく、紙工班の一員として「誰かの役に立っている」「必要とされている」と意識できることが、更に意欲の高まる機会だと考える。作業面だけでなく、分担しているあいさつや号令、後片づけ、窓閉め、ゴミ捨てなどの各係も同様で、掃き掃除の人とちりとりをペアにしたり、交代で終わりの会の司会をするなど自分の役割を果たすことができたり、生徒同士が協力しあえる環境作りにも心がける。

(2) キャリア教育との関連

能力	関係する活動・場面
関わる力	場に応じたあいさつ・返事・言葉遣い・報告 気持ちのコントロール お客さんとのコミュニケーション
描く力	目標の設定 見通しを持った作業 役割を果たす 責任感
求める力	自己選択・決定 作業状況に応じた判断
働く力	持続した作業 準備・後片付け 安全な道具の使用 正確さ 丁寧さ
生活する力	場に応じた服装や身だしなみ お金の計算 計画に沿った活動
楽しむ力	作業の幅を広げる・深める

3 単元のねがい

- ・自分の目標に向けて、集中して取り組んでほしい。
- ・販売会では、みんなで協力し完売に向けて意欲的に販売活動してほしい。

4 単元の計画

(1) 単元の計画

ア 単元活動の進め方

- ・単元初日に「ふれあいバザー」の説明や売り上げ目標を決定したり、カウントダウンを掲示したりして見通しを持って意欲的に取り組めるようにする。
- ・自分で作りたい製品を選ぶ「体験作業」を行った後、製品を決定する。
- ・個人目標をホワイトボードに記入し、作業台に設置する。適宜、振り返り（評価）を行う。
- ・パルプ作りは流れ作業にし、生徒同士が協力しながら取り組めるようにする。
- ・スタンプ押しや袋つめなどの加工にもできるだけ自分たちで取り組む。
- ・「あいさつ」「報告の仕方」を掲示し、適宜確認を行う。
- ・終わりの会でスローガンを唱和し、メンバーのつながりと目標達成に向けて気持ちを高める。
- ・たくさんのお客さんに来ていただけるよう「ちらし配り」を行い、完売を目指す。
- ・「ふれあいバザー」前には値札表や装飾作り、販売の練習を行い気持ちを盛り上げる。
- ・「呼び込み」「会計」「商品渡し」といった係分担を行うことで、自分の役割がわかり協力して販売ができるようにする。
- ・「報告会」や「作業反省会」を行い、販売会の反省や生徒がお互いのがんばりを認め合うようにする。

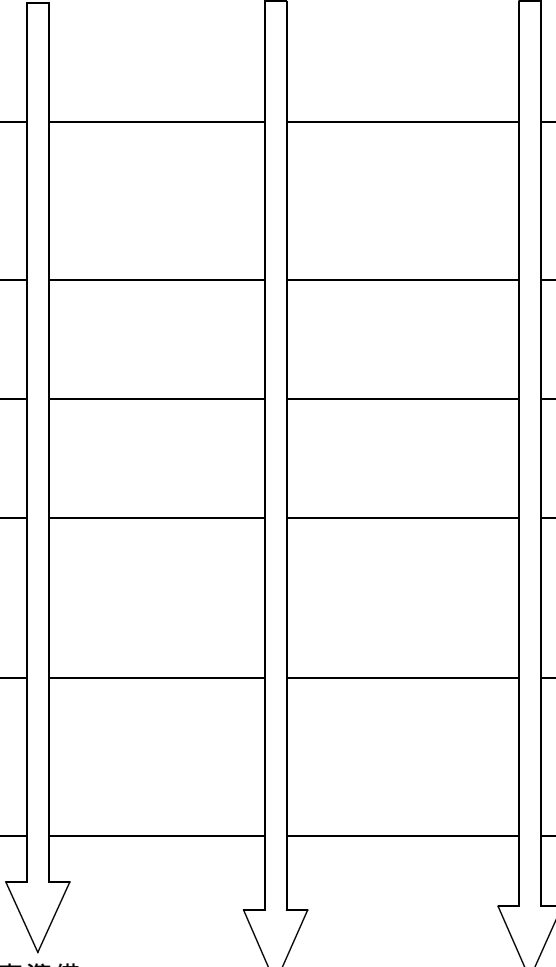
イ 場の設定や教材・教具等の工夫

- ・落ちついて安全に作業できる場の確保や作業台の配置にする。
- ・必要に応じて、手順カードを用いて仕事の内容や順序を確認する。
- ・タイマーや画板、プラスチック板、計量カップ等、生徒に応じた道具や補助具を準備する。
- ・漉き枠や染料は季節や用途に配慮した物を用意する。
- ・ミキサー操作は職員が行う。プレス機を使用する際は職員が常時見守り、安全を確認する。

ウ 教師のかかわり方

- ・教師からの声かけは最小限にし、共に作業に取り組みながら適切な支援を行う。
- ・適切なあいさつや言葉遣いについては、その場で声かけを行う。
- ・よくできたところは賞賛や励ましを行い、自信や意欲を高める。
- ・課題点は次回の授業に生かすように、ホワイトボードを用いて一日の作業内容を生徒と振り返る。

(2) 日程計画

	月	日(曜日)		活動(作業)内容
第1週	11	21(月) 25(金)		<ul style="list-style-type: none"> ・製品決定と担当決め 体験作業(~ 10 / 31) ・販売会に向けての個人目標決め ・販売会売り上げ目標確認 製品作り ←⇔→ パルプ作り 製品加工 (紙漉、レターセット、ハガキ、メッセージカード)
第2週	11	28(月) 29(火) 30(水)		
	12	2(金)		
第3週	12	5(月) 6(火) 7(水) 9(金)	本時	
第4週	12	12(月)		
第5週	1	11(水) 13(金)		
第6週	1	16(月) 17(火) 18(水) 20(金)		
第7週	1	23(月) 24(火) 25(水) 27(金)	ちらし配り(予定)	
第8週	1	31(火)		
	2	1(水) 3(金) 4(土) 5(日)	販売準備 天養ふれあいバザー	
第9週	2	7(火)		天養ふれあいバザー売り上げ報告会

作業反省会(予定)

5 本時について

(1) 本時のねがい

- ・製品作りや製品加工などの仕事に時間いっぱい取り組んでほしい。

(2) 本時の展開

時間	活動(作業)内容	支援上の留意点	準備物
10時40分	1 集合 集合および作業準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・エプロンをまだ着用していない生徒には声かけする。 ・乾いた紙は丁寧に剥がすよう声かけする。 ・各自で使用する道具やお湯の準備を行うよう声かけする。 	エプロン、ぼうし(バンダナ)、洗濯ばさみ、ヤカン
10時50分	2 作業開始 紙漉(レターセット、メモカード、メッセージカード、はがき、祝い封筒) 製品加工(プレス・封筒作り) パルプ作り 切断 牛乳パックはぎ ラミネートはがし パルプちぎり ミキサーかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・準備ができた生徒から順次作業を開始するよう声かけする。 ・個人目標を各自で確認できるようホワイトボードに記入したものを机に設置する。 ・担当する生徒の実態や用途に応じた漉き枠を用意する。 ・目標枚数の紙漉が終わったら、パルプ作りへ移行する。 ・作業によっては、手元が見やすいよう座って作業をする。 ・プレス機やハサミを使用するときは、教師が見守るよう安全に配慮する。 ・必要に応じて、適宜休憩を挟む。 ・十分な活動量を準備する。 ・ハサミを1～2回動かすだけで切断できるよう、牛乳パックの横幅を3.5cmにする。 ・牛乳パックをはがすのが難しい生徒にはあらかじめ角を少しはがしておく。 ・パルプとビニールがはがれやすいように水に浸しておく。 ・パルプは画板に一枚一枚広げて置くようにし、ビニールが残っていないか適宜、確認する。 ・ミキサーに入れるパルプ及び水の量がわかるように容器を準備する。 	<p>紙漉</p> 漉枠、パルプ水、染料、水切りタオル、トレイ、ローラー、画板、手順書、プラスチック板 <p>製品加工</p> プレス機、はさみ、のり <p>パルプ作り</p> 牛乳パック、トレイ、はさみ、画板、バケツ
11時25分	3 作業終了・後片付け ・使用した道具の片付けを行う。 ・掃き掃除、ぞうきんがけ、台ふきを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで取り組めるように「クリーンタイム」の音楽をかけて意識できるようにする。ほうき、ちりとり、椅子片付けなど係を固定する。 ・おわりの会に間に合うよう適宜声かけする。 ・拭き残しが無いよう声かけする。 	CD、ほうき、雑巾、タオル、台ふきん

11時35分	4	おわりの会 ・集合 ・カウントダウン ・先生からの話 (次回の内容確認) ・スローガン	・時間になったら集合の合図をするよう班長に声かけする。 ・今日の活動を評価し、次回の意欲付けをする。 ・紙工班全体のスローガンを一人一人が意識できるよう、唱和する場を設定する。	進行表
11時40分	5	解散	・退室時のあいさつや窓しめ、消灯、施錠ができているか確認をする。	

(3) 生徒の様子、ねがい、手だて

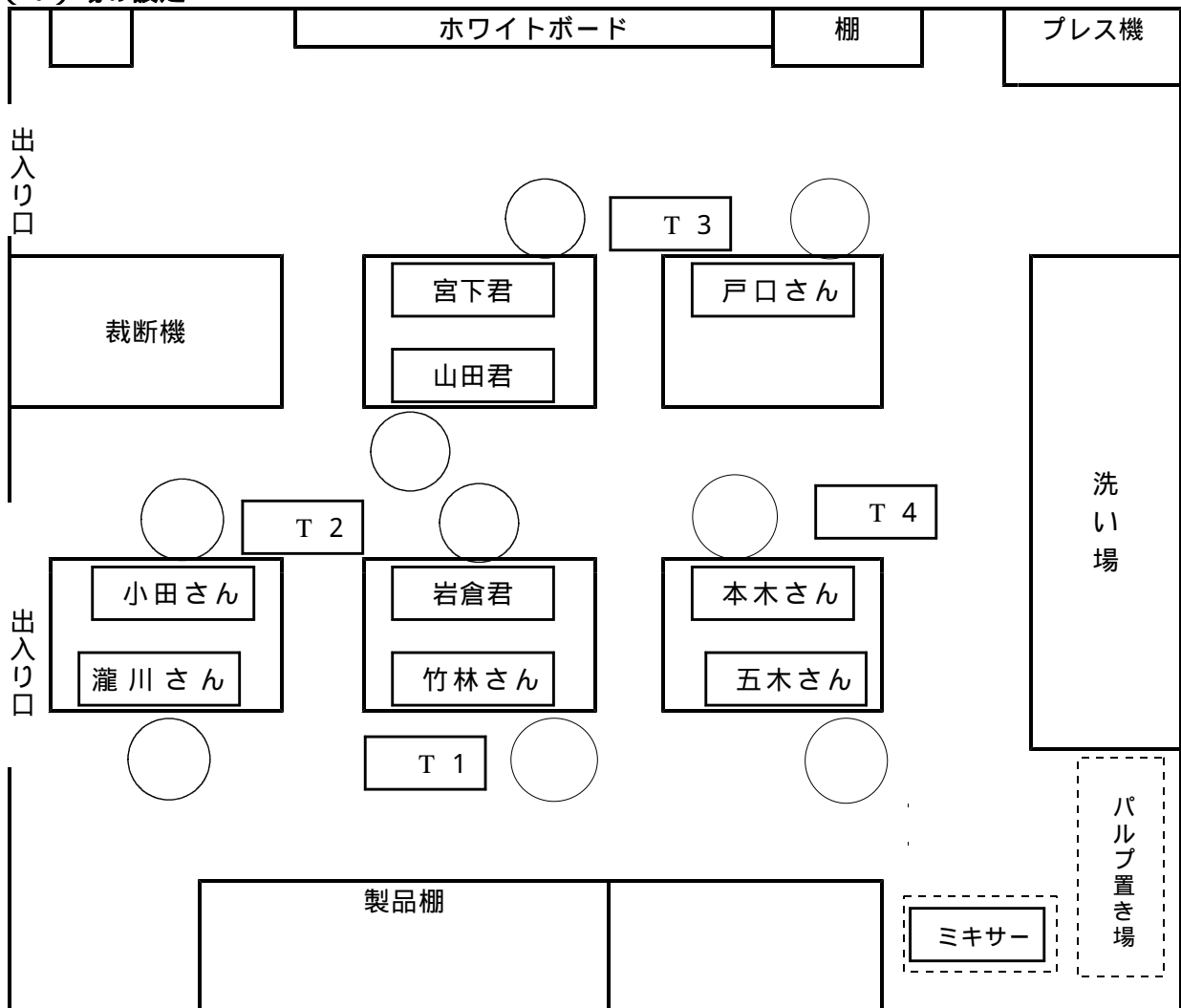
生徒名	単元のねがい	生徒の様子	本時のねがい	手だて
五木まこさん (1年) ハガキ作り パルプ作り (ラミネートはがし・パルプちぎり)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって作業に取り組んでほしい。 ・手順に沿って形の整った製品を作してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しが持てない場合は不安定になることがあるが、徐々に作業内容の急な変更にも対応できるようになってきた。 ・1学期から天養まつりまでの紙漉きの手順と違うことに戸惑いがあり、不安定になることがある。しかし、徐々に作業手順にも慣れ、製品の質が上がってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙漉き、パルプ作り、加工などの作業内容を理解し、見通しをもって作業に取り組んでほしい。 働 ・形の整ったハガキを12枚作ってほしい。 働 案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを準備し、1日の作業内容を確認できるよう記入する。また、製品の目標枚数が達成できているかホワイトボードを使い、適宜、確認しながら作業をする。 ・作業の順番や注意点を書いた手順書を道具に貼り、適宜、声かけをする。
本木愛子さん (1年) 祝い封筒作り パルプ作り (ラミネートはがし)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標20枚を達成するため、自ら1日の作業目標を立て、達成してほしい。 ・1つの作業が終わるごとに報告してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時間が遅くなることがあり、紙漉き作業の時間が確保できないときがある。 ・1つの作業が終わるごとに、報告が言えず次の作業への移行が遅くなる時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業開始前に、自分で本時の紙漉きの目標枚数を立ててほしい。 困 働 ・1つの作業が終わるごとに報告をし、自ら次の作業へ移行してほしい。 関 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを準備し、本人が作業の内容や目標枚数などを書くことができるようにする。目標の書き方などについて適宜、声かけをする。 ・教師が報告を確認したら、ホワイトボードの「報告」を消すようにする。

<p>瀧川美菜さん (1年) レターセット作り パルプ作り (ラミネートはがし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で挨拶返事、報告をしてほしい。 レターセットを紙漉、加工、袋入れまでできるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 時々声が小さく聞きにくい時もあるが、緊張せずに話すようになってきている。 型枠に沿ってきれいに仕上げる事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 封筒を漉いたときの報告は相手にわかるように大きな声で言ってほしい。関 レターセットの封筒が薄くなりすぎないようにパルプを調節しながら漉いてほしい。働 関 描 	<ul style="list-style-type: none"> 報告が聞き取れた時には仕上げた封筒の出来映えや色遣いについて質問をして会話する。 仕上げた時の厚さをそのつど確認するように声かけしてパルプの調節を促す。
<p>岩倉喜則君 (2年) メモカード作り (クローバー) パルプ作り (ラミネートはがし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> できるだけたくさんのメモカードを作してほしい。 副班長の仕事を確実に行ってほしい。 (鍵の開閉、タイムキーパー、終わりの会の司会など) 	<ul style="list-style-type: none"> 紙漉では、厚さが不揃いになったり、模様で懲りすぎて時間が足りなかったりすることがあるが、目標枚数に向けて取り組んでいる。 作業に夢中になり、時間がきても終わりの合図を忘れることがあるが、声かけにより気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 均一の厚さでメモカード6枚の紙漉をしてほしい。画板1枚分(カード6枚)が終わったら教師に報告してほしい。関 働 描 作業終了時刻になったら、自分から大きな声で終わりの合図をしてほしい。関 描 	<ul style="list-style-type: none"> 定量のパルプ水が入る計量カップを用意する。画板1枚分漉いたら報告をし、教師と一緒に確認を行う。目標が達成できたか、ボードで評価をする。 目に付く場所にタイマーを置き、自分でセットする。
<p>竹林安里さん (2年) レターセット作り (便せん、封筒) パルプ作り (ラミネートはがし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 紙漉の作業とパルプ作りに集中して取り組み、毎時間の目標枚数を達成してほしい。 掃除に自分から取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の経験もあり、紙漉やパルプ作りにも慣れている。長時間の立ち仕事が苦手だが、自分のペースで紙漉に取り組むことができる。 掃除(ちりとり)は、疲れからスムーズに動けないこともあるが声かけにより取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5色の色を使いながらチョウ型の便せん5枚と封筒2枚の紙漉をしてほしい。目標枚数が終わったら、ラミネートはがしに取り組んでほしい。描 関 働 ちりとりを準備し協力して掃除に取り組んでほしい。関 描 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に本時の目標枚数を一緒に確認する。終わりが視覚的にわかるように漉いた紙を貼り付けるためのプラスチック板(便せん用)を枚数分用意しておく。目標枚数が終わったことを目標ボードで確認し、次の作業に取りかかるように声かけを行う。 片づけの合図で取りかかるように声かけを行う。掃く生徒とペアにする。



<p>小田まみさん (3年) ハガキ作り パルプ作り (ラミネートはがし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハガキ漉きでは準備から紙漉までの各工程をゆっくり丁寧に集中して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハガキ漉きの準備では作業道具一式を揃えてプレ防止のL字に固定することができる。水切り時間のタイマーを自分でセットすることができる。 ・一枚できると仕上げの確認をして報告することができ賞賛すると意欲が高まりその後も丁寧に紙漉をすることができる。しかし長時間の立ち仕事になると作業も雑になり失敗することが多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルでの水切りは押さえる時、手首の力を加減し、手の平全体で同じ力で押さえることができるようになってほしい。 働 描 ・車いすから立って作業をするので足に負担がある時は我慢せず報告して休憩をするようにしてほしい。 求 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく出来たハガキをそのつど評価しながら進める。 ・足の痛みがある時は周りの職員に言って休憩するように伝える。
<p>宮下雄介君 (3年) メモカード作り (チューリップ・イルカ) レターセット作り (便せん・封筒) パルプ作り (ラミネートはがし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パルプ水の量を調整しながら均質な紙を漉いてほしい。また、自分で立てた計画通りに作業を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なサイズの紙漉を担当し、工程どおり丁寧に作業をすることができる。 ・その日の活動内容を把握していないことが多いが、自分で立てたスケジュールであると覚えていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パルプ水の量を調整しながらレターセット用の便せんを4枚と封筒を2枚漉いてほしい。 求 働 ・その日の作業内容についてスケジュールを自分で確認しながら、見通しをもって活動にとり組んでほしい。 描 	<ul style="list-style-type: none"> ・レターセット専用の漉き枠を用意する。 ・画板1枚分漉いた後は教師に報告するよう声かけする。 ・ふれあいバザーまでのスケジュール用紙を準備し、自分で作業内容を確認するよう声かけする。
<p>山田史昭君 (3年) ハガキ作り メッセージカード作り パルプ作り (切断、牛乳パックはぎ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に紙漉をしてほしい。 ・パルプ作りでは、できるだけ一人で作業をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手が汚れることを苦手としているが、教師と一緒にだと紙漉をすることができる。 ・教師とのかかわりを求めてくる傾向にあるが、パルプ作りでは一人で作業をすることに慣れ、見通しをもって活動することができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒にハガキサイズの紙を12枚漉いてほしい。 働 楽 ・一人で牛乳パックの切断やはがしをしてほしい。また、終わった時はそのことを教師に知らせしてほしい。 働 描 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙漉 牛乳パックはがし 牛乳パック切断の3種類の作業種を用意し、順番に取り組むようにする。 ・牛乳パックをカゴに入れて提示し、時間いっぱい作業ができるよう、適宜、量を調節する。

戸口有里さん (3年) ハガキ作り パルプ作り	<ul style="list-style-type: none"> 登校できた時は、できるだけ紙工室に入って作業をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙漉の工程は理解している。2学期はまだ紙工室に入ることができていないが、1学期は紙工室に1回入室して作業をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙工室でハガキサイズの紙を漉いてほしい。 関 求 働 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に作業学習の日程を一緒に確認し、見通しをもって参加できるようにする。 心の状態が安定している時は紙工室に行くよう声かけする。 緊張により不安が高まった場合は、作業場所を変更する。
----------------------------------	---	--	--	---

(4) 場の設定



(5) 教材・教具等の工夫

<p>Ｌ字ガイド</p>		<p>ガバンでの水切りでずれないように対角線のL字のストッパーを設置。</p>
<p>吸水用補助具</p>		<p>吸水タオルで水分ととる際、均等に力を加えるための板。 (五木さん、本木さんが使用)</p>
<p>目標ボード</p>		<p>一人一人の個人目標を書いたホワイトボード。常に意識できるように、各作業台に設置。授業開始時に確認、終了時にふりかえり(評価)を行う。</p>
<p>プラスチック板</p>		<p>紙漉の終わりが視覚的にわかるように、目標枚数分用意。漉いた紙を貼り付けるためのプラ板。 (山田くん、竹林さんが使用)</p>

事例

【高等部紙工班 1 年生 五木さんの様子】

生徒について		
卒業後の姿 (将来の生活についての希望)	・日々の活動の支援を受けながら、自宅を拠点に働く生活を送る。	
年間のねがい	・教師と活動内容を確認し、見通しをもって活動をする。 ・教師や友だちとコミュニケーションを取りながら活動をする。 ・作業に集中して取り組む。	
単元でのねがい		
関わる力	自らあいさつや報告をする。	
描く力	自分の仕事を理解して最後までやり遂げる。	
求める力	自分で作業の順番を決め、意欲的に取り組む。	
働く力	手順に沿って形の整った製品を作る。	
生活する力	作業着、エプロン、帽子等作業に適した服装をする。	
楽しむ力	色付けのバリエーションを増やす。	
本単元の生徒の様子	・活動に見通しがもてないときや、作業のやり方が分からないときに大きな声を出してしまうことがあるが、スケジュールや手順書を用い定着してくると、落ち着いて作業に取り組むことができる。 ・色に対して興味があり、紙漉きでの着色工程が好きである。不安定になったときでも紙漉きをすることで落ち着くことが多い。	
活動内容	手だて	活動での様子
1 学期 ・ハガキ作り ・パルプ作り (パルプちぎり) (ラミネートはがし) (牛乳パック切断)	・ハガキ漉き、パルプちぎり、準備、片付け、休憩等の項目を記入したスケジュール表を準備し、項目が終わるごとに本人が、剥がすようにする。 ・丁寧な作業を継続できるよう、画板 1 枚分(ハガキ 4 枚)で作業を区切り、休憩(5分)を挟むようにする。	・4 月初、見通しが持てず作業に参加することが難しかった。パルプちぎり、ハサミを使って牛乳パックを切るなど分かりやすい作業に取り組むことで落ち着いて取り組むことが増えた。スケジュール表を使うことで紙漉きの作業が徐々に定着し、適宜、休憩を挟むことで活動に取り組む時間が長くなってきた。
9 月 ・ハガキ作り ・パルプ作り (パルプちぎり・ラミネートはがし) ・加工(ハガキのプレス)	・ホワイトボードを準備し、1 日の作業目標を記入する。ハガキ 20 枚) ・プレスをする際、教師が適宜、見守り、安全にプレス機が使えるよう声かけや補助をする。	・スケジュール表を使わず、作業に見通しを持って取り組むことができるようになった。また、作業内容の変更にも対応できるようになってきた。紙漉き(ハガキ)も、多い日は 20 枚以上漉くこともあった。
10 ・ 11 月 ・ハガキ作り ・パルプ作り (パルプちぎり・ラミネートはがし) ・ハガキのプレス	・水切りをする際、20 秒数えるようにする。その後、吸水タオルに置く工程を追加する。	・紙漉きの手順は定着したが、水切りが不十分だったため、形が整わなかったり破けたりすることがあった。十分に水切りができるよう、工程を追加し取り組んでいるが、定着が難しく不安定になることがあった。

**平成 2 3 年度
高等部「作業学習（木工班）」指導案
単元「ふれあいバザーにむけて」**

日 時 : 平成 2 3 年 1 2 月 9 日 (金)
1 0 : 4 0 ~ 1 1 : 4 0

場 所 : 作業棟木工室

生 徒 : 6 人 (1 年 3 人 2 年 1 人 3 年 2 人)

指 導 者 : 教 諭 西村 亮 (T1) 講 師 嶋田 真紀 (T2)
講 師 中本 武蔵 (T3) 講 師 村上 尚平 (T4)

本日の授業について

木工班では、全員で各工程を分担して1脚の丸イスを作り上げています。それぞれが自分の作業に責任を持って取り組み、仲間と協力して作業を行うことで、責任感や連帯感、また、製品完成の達成感を味わい、働く意欲や喜びへつなげることができる授業づくりを目指しています。

一人一人の持っている力が十分発揮される作業工程や補助具の準備、作業態度を養うための環境や支援ができていたか、一人一人のねがいが達成できるための手だてはどうか等、ご助言等よろしく願いいたします。

熊本県立天草養護学校

1 単元「ふれあいバザー」

2 単元について

(1) 単元について

<新しいメンバーで作業に勢いを>

今年度のスタートした時点でのメンバー編成は1年生4人、2年生2人、3年生2人、教師5人。1学期からの作業を通し各工程の作業内容や特徴が分かり、自分の担当する作業への責任感や仲間と協力して作り上げる実感を得ながら、昨年の1年分に相当する76脚の丸イスをこれまでに作り上げ、例年にない生徒たちの技能面の高さが窺えた。

<一人一人のステップアップを目指し>

本単元では、天養まつりの販売結果をもとに、製作目標数や販売金額を生徒たちで設定した。これまでの製作実績とふれあいバザーまでの作業日数から達成できる目標を計算し、さらに+ を加えた高い製作数を生徒自身から掲げている。作業工程の担当も、生徒の希望や反省をもとに変更すると共に、目標達成シートを振り返りながら、確実にステップアップした目標を設定することで、天養まつり以上に成長した姿を目指したい。

<現場実習へつながる"働く力"へ>

前述したように、生徒たちの技術力の高さが光る一方で、「あいさつ」「返事」「報告」などの基本的な作業態度が十分に身につけていない生徒、自分のやりたい作業ばかりを優先してしまう生徒、気分がムラがあり、なかなか安定して作業に取り組めない生徒など、それぞれの課題が浮き彫りにもなっている。現場実習での実習先からの評価も取り入れながら、基本的な作業態度の重要性の理解、獲得を目標に作業環境を整えていく。また、生徒に求める姿同様に、教師自らが率先して作業に取り組み、生徒以上に大きな声であいさつ、返事をするなど、現場実習の事業所から学んだことを積極的に作業学習に取り入れていく。

<実践的な態度を育てるために>

これまでの生徒の様子や現場実習の実習先評価などから、新たな目標や課題について整理した。一人一人の良い面は更に伸ばしながら、課題面は改善・克服できるよう学習環境を整えながら、作業学習以外の場面でも般化できるようにしていきたい。そのために、生徒によっては作業日誌を活用しながら、担当教師と一緒に作業を振り返り、毎日の目標や課題設定をすることで、毎日の変化をフィードバックできるように努める。また、毎週木曜日のステップアップタイムでの進路学習と連動した目標設定や2学期から取り入れたビデオによるフィードバック学習を活用しながら、目標設定や自分の良い面、これからの課題、卒業後はたらく意欲などについて、具体的にイメージできるようにしていく。

(2) キャリア教育との関連

能力	関係する活動・場面
関わる力	場に応じたあいさつ 返事 言葉遣い 報告 周囲への依頼・援助
描く力	単元での作業目標の設定 見通しを持った行動 役割を果たす 責任感
求める力	使用する道具の自己選択・決定 状況や工程に応じた判断
働く力	持続 準備・後片付け 安全な道具の使用 正確・丁寧さ
生活する力	場に応じた服装や身だしなみ 金銭計算・管理 交通機関の利用 案内状・礼状などの作成 清掃、整理整頓
楽しむ力	反省会での活動(食事場所、レクリエーション内容)を企画・実施

3 単元のねがい

- ・バザーの販売目標及び、自分の目標を意識しながら作業活動や販売準備活動に取り組んでほしい。
- ・バザー当日は、目標達成に向けて、自分の役割を果たし、仲間と協力して取り組んでほしい。

4 単元の計画

(1) 単元の計画

ア 単元活動の進め方

- ・具体的な目標や見通しが持てるよう、販売目標数、日程表、カウントダウンを掲示する。
- ・1日の完成目標数を設定することで、工程毎の作業量が分かり、見通しを持って取り組むことができるようにする。
- ・返事や報告、声の大きさなどの作業態度や個別の目標については、毎日の作業日誌で継続して振り返りを行う。
- ・販売会への意欲が高まるよう、アンケート葉書やサンキューカードを作成したり、チラシ配りの機会を設けたりする。また、販売会終了後には、今年度にお世話になった皆さんへの礼状を送ることで、自分たちの製品が、買っていただいたお客様の生活の中で活用されている実感を得られる機会を設ける。
- ・販売会当日は、一人一人が存分に活動できるよう、会計係、接客係、包装係、運搬係、アンケート係などそれぞれ分担した役割に取り組む。
- ・販売活動での頑張りをみんなに知らせる報告会を行い、1年の頑張りと成長を互いに認める。

イ 場の設定や教材・教具等の工夫

- ・作業工程や活動全体を見通すことができるよう、また、作業の安全等にも配慮した場の設定を行う。
- ・生徒のできる活動ややりたい活動を大切に、かつ主体的な作業ができるよう、一人一人に合わせた補助具や治具の工夫を行う。

ウ 教師のかかわり方

- ・作業への意欲が高まるよう、販売会やお客さんの意見などを教師が積極的に話題にし雰囲気盛り上げる。
- ・生徒が力を発揮し、自信を持って作業に取り組むことができるよう、生徒の様子に応じた声をかけたり、教師も一緒に作業を行ったりする。
- ・作業開始前に目標を確認するなど、作業日誌を活用し、一人一人の生徒に応じた支援を行う。
- ・販売会当日は販売会の楽しさを十分に味わうことができるよう、生徒と教師が共に販売や呼び込みなどの活動を行う。

(2) 日程計画

月	日(曜日)	活動(作業)内容	備考
10	19日(水)	目標設定・オリエンテーション	
	21日(金)～	丸イス製作	
11	7日(月)～	産業現場等における実習(作業学習なし)	
	18日(金)		
	21日(月)～	作業学習 再開	
12	9日(金)	本時	
	19日(月)	2学期振り返り	
1	11日(水)	冬期休業明け作業開始	
	24日(火)	チラシ配り	
2	4日(土)	前日準備	
	5日(日)	ふれあいバザー当日	
	7日(火)	販売報告会	

5 本時について

(1) 本時のねがい

- ・目標達成に向けて、それぞれの作業に精いっぱい取り組んでほしい。

(2) 本時の展開

時間	活動(作業)内容	支援上の留意点	準備物
10時40分	1 作業着に着替え、木工室に集合。 各自作業開始	・全員が揃うまで、それぞれの作業準備、作業に取り組む。	日程表 作業目標
10時45分	2 始礼	・販売目標等を全員で確認した後、個別に作業目標等を確認する。	カシメ
10時50分	3 作業開始 ダボ切り(梅本) 座面の接合(石崎) ・板を4枚接合し、接合板を作る 接合板の角落とし(梅本、石崎) ・座面の円の外側に線を引いて、線に沿って、鋸で切り落とす 旋盤(中西) 塗装、拭き上げ(端元) 相欠き接ぎの木の接合、ダボ穴開け、ダボ打ち(磯川) 座面の木ネジ穴印付け、穴開け(白井) ・8個の穴空けを行う 組立(白井) ・木ネジとインパクトドライバーで、各 부품の組立を行う 組み立て後のダボ打ち(白井) 仕上げ塗装、拭き上げ(端元)	・切断したダボの本数がかかるよう、小分けできるケースを準備する。 ・ボンドの量及び接合面について意識できるよう、適宜声かけし、終わったら教師と一緒に確認する。 ・鋸が斜めにならないよう、切断箇所を真っ正面に立つよう立ち位置を決めておく。 ・バイトの向きや器具の固定に注意し、自分で確認しながら進められるように手順書を用意する。 ・均一に塗れるよう大きめのウェスを用意する。 ・塗り残しがないように確認する。 ・穴を開ける位置を確認できるようにマーカで印を付ける。 ・部品に応じて穴の深さが調節できるように補助具を用意する。左手で板を押さえるよう声かけをする。 ・正確に組立ができるよう手順を一定にする。 ・部品を安定させ組み立てできるように固定台を用意する。	補助具 鋸、クランプ、ボンド、刷毛 手順書 塗料、ゴム手袋、ウェス 補助具、ダボ ボンド、木槌 補助具 インパクトドライバー、ボンド、ネジ 木槌、ダボ、塗料、手袋、ウェス
11時25分	4 後片付け ・それぞれが持ち場の片付け、清掃に取り組む	・周囲の様子を確認しながら、自分から掃除の選択、清掃ができているか観察、声かけする。	分担表
11時35分	5 終礼		

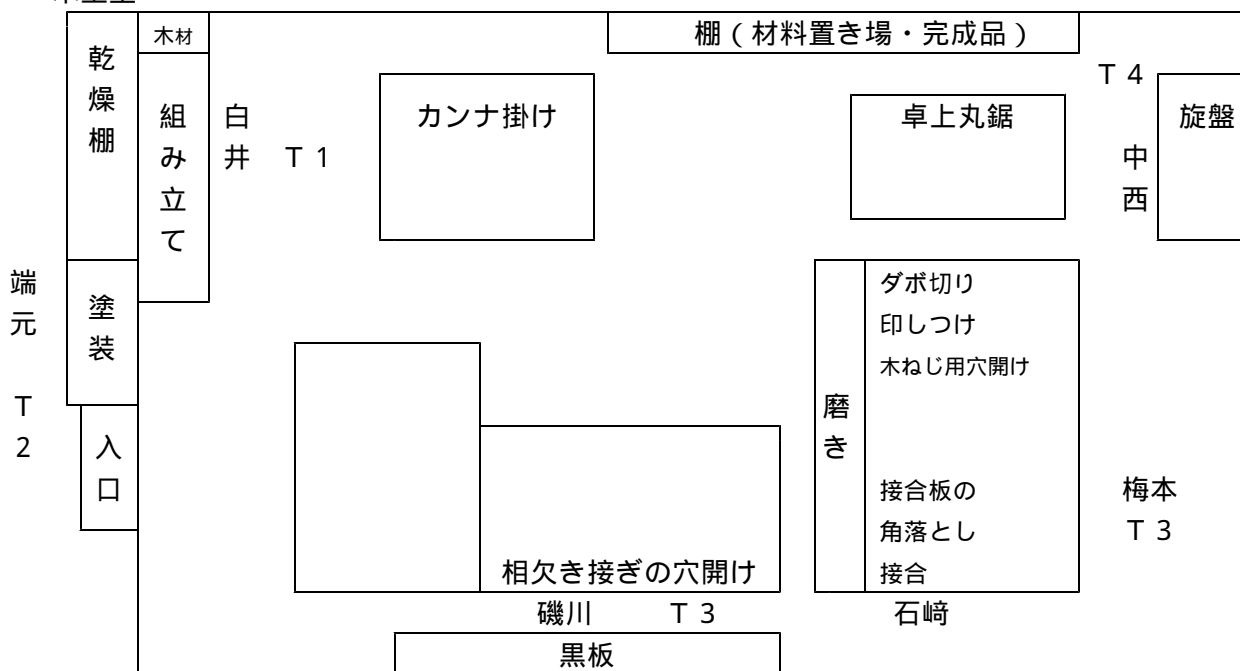
(3) 子どもの様子、ねがい、手だて

生徒名	単元のねがい	生徒の様子	本時のねがい	手だて
石崎康生君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を知り、責任感を持って作業に取り組んでほしい。 ボンドの量や拭き残しに注意して、丁寧に接合作業をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちが不安定な時は、作業参加が難しいが、じっくり話を聞くことで気持ちを切り替えられるようになり、欠席が減ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 開始時間に遅れずに作業に参加してほしい。 描 座面1枚の接合を仕上げしてほしい。 働 	<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌で、その日の作業内容と目標を教師と一緒に確認し、見通しが持てるようにする。 出来高表を準備し、目標達成までの個数を確認しながら作業に取り組む。
中西正雄君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 作業手順を覚え、目標を設定し丁寧に作業に取り組んでほしい。 自分からあいさつ、返事、報告を大きな声でしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期から旋盤を担当。報告や質問など、作業態度面に課題は見られるが、技術面は非常に高く、正確な加工が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 座面1枚を丁寧に仕上げしてほしい。 描 相手に伝わる入退室のあいさつや報告等をしてほしい。 関 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントの部分では、その都度報告をするよう手順書に示し、事前にも本人にも伝えておく。 作業場面以外での良い作業態度なども取り上げながら、自発的にあいさつできる雰囲気をつくる。
白井美砂さん (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 作業スピード、丁寧さのバランスを取りながら、丸イスを組み立ててほしい。 作業態度や役割への理解を深めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> まつり單元では、スピードを意識する余り、丁寧さに課題が見られたが、作業の手順やコツの飲み込みは早く、一人で組立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 座面を傷付けないように、丸椅子1脚を組み立ててほしい。 働 組立終了後は、自分で考えて次の作業に取り組んでほしい。 関 求 描 	<ul style="list-style-type: none"> 作業前に、課題確認と目標設定について確認する。 ポイントをまとめた手順表を用意する。 自分の担当工程が終わった時点で、周囲を見て、どこの工程が手薄になっているか話し合う。
端元友美さん (2年)	<ul style="list-style-type: none"> 任された工程を一人で確実に行ってほしい。 分からないことや不安なことに対して、自分から質問や確認をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 分からないとき、不安なときに確認することが苦手だが、あいさつや返事などは大変好感が持てる。 慎重、丁寧な作業への苦手意識が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 2脚分の丸イスのパーツを丁寧に塗装してほしい。 働 描 分からないことや不安なことを自分から質問、確認してほしい。 関 求 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に取り組む前に、前日までの失敗や課題を教師と振り返ることで、つまづきやすいポイントを再確認しておく。 自分から報告や確認できたときには、良かった点を教師と一緒に振り返る。
梅本純也君 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> 毎日作業に参加し、興味関心の 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間が担当していた角落とし 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で鋸を使用して、1枚分の 	<ul style="list-style-type: none"> クランプの固定位置の確認は教師と一緒に行いな

	ある作業に自分から取り組んでほしい。	に関心を示し、自分から作業を要求する様子が見られた。	角落しを仕上げてほしい。 働 描	がら、途中で活動が止まらないように配慮する。
磯川文典君 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開始時間までに作業に参加してほしい。 ・ 相欠き接ぎが完成したら、自分から教師に報告してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動間の切り替えが苦手で、遅れて活動参加することが多いが、木工室へ来ると進んで作業できる。 ・ 相談や報告は、教師の促しがあればできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業開始に間に合うように作業準備をしてほしい。 描 ・ 相欠き接ぎを時間内に5個仕上げ、自分から報告してほしい。 関 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始礼への参加意欲が高まるように日付係りの発表係を任せる。参加状況に合わせて強化子となるトークンを渡すなどする。 ・ 手順表に作業終わりの報告を明記しておく。 ・ 出来高表を準備し、自分のがんばりを後から確認できるようにする。

(4) 場の設定

木工室



事例

【高等部 1 年生 中西さんの様子】

生徒について		
卒業後の姿 (将来の生活についての希望)	・熊本市内で一般就労をし、グループホームを利用しながら自立した生活を送りたい。	
年間のねがい	・自分の気持ちを言葉で伝えたり、文章で表現したりする。 ・自分から相手に伝わる声であいさつ、返事、報告をする。 ・簡単な調理を一人でする。 ・頼まれたことを快く引き受ける。	
単元でのねがい		
関わる力	・自分から相手に伝わる声であいさつ、返事、報告をする。	
描く力	・自分でたてた目標「1日に2枚の座面を仕上げる」を達成する。	
求める力	・傷や破損に自分で気づき、適切な工具を選び、丁寧に座面を仕上げる。	
働く力	・担当以外の作業でも、責任を持って取り組む。	
生活する力		
楽しむ力		
本単元の生徒の様子	・自分で「大きな声であいさつ、返事、報告」を目標に立て、朝会であいさつ係を担当している。 ・担当の旋盤作業では技術面が高く、販売会までに42脚を製作するという前単元を上回る高い目標を設定し、作業に対する意欲の向上が見られる。 ・終わりまでの見通しが持ちにくい磨き作業は苦手意識があるが、教師と一緒に目標を決めたり、手順を確認したりすると、取り組むことができる。	
活動内容	手だて	活動での様子
1 週目 ・天養まつりの反省、2月の販売会に向けての目標決め ・あいさつ ・切断	・1, 2学期の作業日数と製作したイスの数を表記したワークシートを準備する。 ・自分から相手に伝わる声であいさつをする。 ・教師と一緒に作業内容や作業量を確認する。	・自ら「次の販売会に向けて42脚製作する!」という目標を立て、発表することができた。 ・声は小さかったが、自分からあいさつをすることができた。 ・休むことなく2時間取り組むことができた。
2 ・ 3 週目 ・旋盤(座面を削る作業) ・あいさつ	・視覚的に確認できるように座面完成表を作成し、1日の目標枚数を示す。 ・教師も一緒に大きな声で見本を示し、あいさつしやすい雰囲気を作る。	・目標枚数を意識しながら時間内に2枚の座面を仕上げることができた。 ・徐々に誰にでも大きな声であいさつができるようになってきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・磨き（脚、相欠け接ぎ部分） * 火、金曜日に磨き作業を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に磨く本数を本人と相談する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1本の仕上がりに時間はかかるが、最後まで集中して取り組むことができた。
	産業現場等における実習（作業学習なし）		
4週目	<ul style="list-style-type: none"> ・旋盤（座面を削る作業） ・返事、報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・削りや磨き等の工程や完成後の座面の厚さを確認する。 ・報告「確認をお願いします」や返事ができたら賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚さ 2.5cm の薄い座面を仕上げることができた。 ・声は小さかったが教師が手本を示すと報告することができた。
5週目	<ul style="list-style-type: none"> ・旋盤（座面を削る作業） ・返事、報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に座面が薄く仕上がる原因を話し合う時間を設定する。 ・実習の評価と課題を教師と一緒に再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・削りや磨きの時、定規を使い厚さを確認する回数を増やしたことで、1日2枚の座面（厚さ 2.8cm 以上）を仕上げることができた。 ・回を重ねるごとにはっきりとした声で返事や報告ができた。
6週目	<ul style="list-style-type: none"> ・旋盤（座面を削る作業） ・返事、報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・磨きの時間の短縮と報告の回数を確認する。 ・実習中の本人の様子を振り返る時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1枚にかかる時間が短縮でき、前週同等の仕上げで効率よく2枚の座面を仕上げることができた。 ・自分から「確認をお願いします」と報告ができた。

平成23年度 高等部「作業学習（窯業班）」指導案

単元「ふれあいバザーにむけて」

日 時 : 平成23年12月9日(金)
10:40~11:40

場 所 : 作業棟窯業室、窯業棟

生 徒 : 14人(1年7人 2年4人 3年3人)

指 導 者 : 教諭 間 万里子(T1) 教諭 中野 和久(T2)
教諭 林 誠 (T3) 講師 福島 航 (T4)
講師 東 祐美子(T5) 講師 平山 陽子(T6)
講師 田川 裕子(T7) 実習教師 松本 一彦(T8)

本日の授業について

現在、最後の販売会に向けて製品作りに取り組んでいます。本年度は、教師と生徒の大半が初めてというメンバーながらも、本単元では、これまでに習得したスキルを生かし、新製品や継続して制作に取り組んでいます。また、あいさつや返事・報告等、基本的な作業態度を身につけることができるような授業を進めています。

それぞれの卒業後の姿につなげていくための作業学習の在り方、また、よりよい授業の組み立てや手立て等について多くのご意見をお願いします。

1 単元「ふれあいバザーにむけて

～ 一生懸命、お客さんが喜ぶものを、たくさん作って販売しよう ～」

2 単元について

(1) 単元について

<初めてのメンバーで>

本年度の窯業班のメンバーは1年生の7人、2年生の4人、3年生の3人の計14人で作業を行っている。ほとんどが初めての経験ではあるが、手先が器用で、見本通りに製品作りができる生徒もいるが、細かな作業が苦手な生徒もいる。また、授業時間の最後まで集中して取り組むことができる生徒もいるが、見通しが持てないと不適応な行動をとったり、集中力を持続することが難しい生徒もいる。そこで、窯業棟と窯業室の2つに作業場を分けたり、各生徒のペースに合った作業内容に取り組んだりしている。さらに、歩行が不安定であったり車椅子を使用している生徒に応じて、活動の動線を工夫して、安全面や健康面に配慮しながら作業に取り組んでいる。

<自分の思いを形に>

生徒も教師も初心者が大半を占めるメンバーでスタートし、まずは粘土に触ること、そして製品づくりに必要な基本的なスキルを身につけることを目標に活動に取り組んだ。1学期末には、初めて販売会を実施し、自分たちがつくった製品を販売し、お客さんと接する中で喜びや充実感を味わうことができた。また、10月に行われた天養まつりに向けた単元では、1学期に習得したスキルを生かして新たな製品を作ったり、販売会でお客さんからいただいた、製品に関する意見や感想から生まれた、自分の思いを形にしていく内容を構成して活動に取り組んだ。伝えることが難しい生徒も、選択肢を増やして提示すると、視線やつぶやきで気持ちを表現し、それを教師が読み取り、思いを形にする授業を心がけてきた。

本単元では、最後の販売会に向けて今まで培ってきた力を発揮し、自分の思いとお客さんの要望を合わせて、お客さんが使って喜びを感じることができるような製品づくりを目指している。具体的には、お碗を作っていた生徒が、お客さんの「冬だから、温かいスープを入れる皿がほしいな」という声を聞き、これまで学んできた粘土をたたいて伸ばす方法をベースに、自分らしい絵を取り入れた新製品づくりをしているようなことが挙げられる。また、生徒の様子を見ながら、できるようになったことを褒めて、生徒自身が「人から褒められる」喜びを感じられるようにすることで、生徒の意欲を一層高めて新たな発想や思いが生み出せるようにする。

<基本的な働く力を高めて>

生徒の卒業後の生活環境を考えたときに、生徒たちが自分の「やりがい」をもって「働き続ける」ためには、生徒たちが「働く」ことに対して前向きな考えを持つことが大切であると考え。そこで、授業では全員に係りを決めて、責任を持って仕事をすることや、自分の製品を最後まで丁寧に仕上げること等を通して、周りから感謝されたり、人の役に立つことを感じられる場面を意識して取り上げている。

また、1学期に、1年生は校内実習を、2・3年生は現場実習を通して将来の社会生活について学んできた。そこで見えてきたのは、あいさつや返事・報告等、卒業後の働く生活を見据えた基本的な生活態度の重要性である。これらの力は学校生活全般を通して身につけるものであるが、特に作業学習では、「失礼します」「失礼しました」の入退室のあいさつや、名前を呼ばれた時の返事、また「できました」「次はどうすればいいですか」「～ください」等の作業中の報告、さらに授業中の態度等を身につけることができるようにしていく。そのために、どんな場面にどのような態度が望ましいのかを教師が模範となって伝えたり、一緒に働くことによって好ましい作業態度を示したりする等の工夫をしている。これらを通して、生徒の「働く」活動に対する意欲面や態度面の充実を図る。

<わかりやすい授業を>

まず、班の職員全員で全ての生徒の将来のねがいや、作業での目標を共通認識する時間を設けた。このことによって、全職員が同じ視点で生徒を捉え、支援の一貫性が可能になるのではないかと考えた。また、窯業は製作、素焼き、磨き、釉薬掛け、本焼き等の流れがあり、1つ1つの過程での見通しは持ちやすくても全体の見通しが持ちづらいときがある。そこで、早めに計画をして具体的な活動内容を生徒に提示したり、場面や時間を区切って目標を細かく設定をして、活動がスムーズに流れるように工夫をしている。生徒によっては、事前に写真で活動内容を示したり、教師が見本を示したりして理解を促す工夫等をしている。また、生徒自身の作品に対する思いを個別に聞いて、それを実現するための補助具を作ったり、自己の活動や行動に対する振り返りができるように日誌をつけたり感想を発表しあう場を設けたりしながら、わかりやすく主体的に活動できる授業づくりを目指したい。

(2) キャリア教育との関連

能力	関係する活動・場面
関わる力	場に応じたあいさつ・返事・言葉遣い・報告 気持のコントロール お客さんとのコミュニケーション
描く力	目標の設定 見通しを持った作業
求める力	自己選択・決定 作業状況に応じた判断
働く力	持続した作業 準備・後片付け 安全な道具の使用
生活する力	場に応じた服装や身だしなみ お金の計算 計画に沿った活動 見通しを持つ
楽しむ力	作業の幅を広げる・深める

3 単元のねがい

- ・自分の仕事、役割に責任をもって、最後までやりとげてほしい。
- ・自分の目標を意識して、見通しをもって作業に取り組んでほしい。
- ・あいさつや返事・報告等、基本的な作業態度を身につけてほしい。
- ・ふれあいバザー当日は、販売を通してお客さんと触れ合い、充実感や達成感を味わってほしい。

4 単元の計画

(1) 単元の計画

ア 単元活動の進め方

- ・自分たちでふれあいバザーに向けての目標を決め、販売への期待感を高める。
- ・意欲的に日々の活動に取り組むことができるように、みんなで考えたキャッチフレーズを前方に掲示しておき、みんなで始めの会のときにコールする。
- ・班長が始めの会、終わりの会を行ったり、一人ひとりに係の仕事を分担し、意欲を高める。
- ・毎時、それぞれの目標や活動内容について担当の先生と個別に確認をして、見通しを持って活動できるようにする。
- ・終わりの会では、輪番で1人の生徒が作業の感想を発表したり、特に頑張っていた生徒の様子を教師が発表することで、友だちの頑張りを認め合い、切磋琢磨できるようにする。
- ・見通しをもって作業に取り組むことができるように、大きな日程表を掲示したり、生徒に応じて、事前に写真を提示したり教師が見本を示したりする。
- ・できるだけ同じ作業内容を繰り返し取り組むことで、作業に見通しを持ちやすくする。
- ・片付けの時間には、班長が声をかけ、時間を意識して取り組めるようにする。
- ・販売会に向けて見通しが持てるよう、カウントダウン表を準備する。
- ・製作以外の「素焼き」や「本焼き」、チラシ書きや看板製作等も全員で取り組み、販売会までの

一連の流れを知ること、製品作りの達成感や喜びを味わい、販売会への意欲を高めるようにする。

- ・「ふれあいバザー」前には、窯業班の看板やチラシ等を作成したり、会計や接客等の販売会の練習を行い、期待感を高めるようにする。
- ・報告会準備や報告会では、充実感や達成感を味わうことができるように、お客さんの声を伝えたり、売り上げ金額や販売個数を発表する。


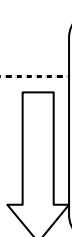
イ 場の設定や教材・教具等の工夫

- ・時間いっぱい作業に取り組めるよう、材料を十分用意する。
- ・たたら機や紐作り機をおく場所を考え、生徒が活動の流れに沿って動きやすい動線を確保する。
- ・生徒のペースや生徒同士の人間関係を考えて、作業場を2つに分けて生徒が活動しやすい環境をつくる。また、周囲との関わりを考え個別の作業スペースを確保する。
- ・道具を保管する場所やそれぞれのかご等を準備して、道具の整理整頓をとめる。
- ・集中して活動ができるように、生徒同士の距離を適度に離れた作業機の配置や座席を工夫する。
- ・生徒に応じて、1人でも作業を進めることができるような手順書を作成したり、補助具を準備したりする。
- ・生徒の実態に応じて、製作しやすい机の高さや広さを考えて場を設定する。

ウ 教師のかかわり方

- ・どんな場面にどのような態度が望ましいのか等を教師が模範となって伝えたり、一緒に働くことによって好ましい作業態度を示したりする。
- ・生徒のよい姿を積極的に褒めて、意欲につなげる。
- ・生徒の目標を段階ごとに設定し、はじめのうちは手順表を示したり、一緒に製作したりして、徐々に支援を減らしていく。
- ・健康観察を行い、生徒の体調や様子に気をつけ、必要に応じて個別に対応する時間を設ける。
- ・あいさつや返事、報告については、その都度声かけを行う。
- ・班の職員全員で全ての生徒の将来のねがいや、作業での目標を共通認識しておき、支援の共通化を図る。

(2) 日程計画

月	日(曜日)	活動(作業)内容	備考
10	19(水) 21(金)~	窯業室清掃、導入、目標設定、オリエンテーション 製品作り	
11	7(月)~ 18(金)	産業現場等における実習(作業学習なし)	
11	21(月)~	作業学習開始	
12	9(金)~	本時	
1		<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 成形 乾燥 磨き </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	1/12(木) 素焼き 1/26(木) 本焼き
		販売準備	
2	5(日) 7(火)	ふれあいバザー当日 ふれあいバザー反省、販売売り上げ報告会	

5 本時について

(1) 本時のねがい

- ・自分の目標に向けて、自分の仕事・作業工程に見通しを持って最後まで取り組んでほしい。
- ・入退室や授業開始終了時のあいさつや返事・報告等をきちんと行い、基本的な作業態度を身につけてほしい。

(2) 本時の展開

時間	活動(作業)内容	支援上の留意点	準備物
10時40分 (全員 窯業室)	1 始めの会 ・あいさつをする ・出欠確認をする ・本日の活動内容を知る ・先生の話聞く ・それぞれの場所に分かれる	・教室に入ってくる様子を見ながら生徒の体調や様子を把握する。 ・班長に事前に活動内容を伝えておく。 ・それぞれエプロンをつけたり、道具を出したりして、準備をするよう適宜声をかける。	エプロン 出欠表 道具カゴ
10時45分 (窯業室)	2 製品づくりに取り組む 金田君(大皿づくり)	・石膏型に貼り付ける位置に印をつける。 ・安心して製作できるように、量を量った粘土の固まりを十分に用意しておく。 ・指示が通りやすいような短い言葉でタイミングよく伝える。 ・見通しを持って活動できるように、事前に目標個数を決めたり、スケジュールを確認する。	石膏型 お碗 粘土板 筆 板の型2枚 スケジュール表
	岩井君(スープカップづくり)	・粘土の貼る位置がわかるように、石膏型にマジックで色分けをする。 ・出来る限り、1人で作業ができるように道具や粘土の量の確認する。 ・取っ手をつける際は、ブラシで印をつけ、貼る場所を明確に示す。	石膏型 たたく石 ろくろ 餅取り粉 粘土板 お碗
	鯖田君(お茶碗づくり)	・粘土を手で伸ばす際に、厚さが均一になるように一緒に確認をする。 ・道具の置き場を決めて、身の回りの道具の整理整頓をする。 ・教師に報告をする場面を決めて、丁寧に製作ができていないか確認をする。	粘土板 ろくろ 2台 しるしつけ どべ 歯ブラシ 石膏型
	山下君(小皿づくり)	・作業時間いっぱい取り組めるようにする。 ・型枠に均等に力がかかるようにする。 ・自ら報告ができるよう、報告する場面を教師と一緒に確認する。 ・一人で準備ができるよう、準備する道具の写真を用意する。	粘土板 型枠 石膏型 タンポ 確認表(報告用) 見本表(写真)
	大木君(四角皿づくり)	・活動の流れを表にして、出来るだけ一人で取り組めるようにする。 ・力加減など細かい作業は、要領がわかるまでは教師が手本を示したり、教師と一緒に取り組むようにする。	型枠 発泡スチロールトレイ ナイフ ヘラ 洗面器

	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライヤーで皿を乾燥させる時間がわかるようにタイマーを用意する。 ・一人で準備ができるよう、準備する道具の写真を用意する。 	粘土板 ドライヤー タイマー 見本表(写真)
井玉田君(置物・カップづくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して製作できる環境をつくる。 ・1日の目標数を一緒に決め、時間と丁寧さを意識して取り組むようにする。 ・作業日誌のやりとりを通して、作業態度や出来高を振り返る機会をつくり、意識して作業に取り組めるようにする。 	粘土板 どべ 筆 石膏型
山森君(だ円皿づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を一つにまとめておき、一人で準備ができるようにする。 ・目線が粘土に合うように、ろくろ台で高さを調整する。 ・湿り気のあるものを拭き取ろうとすることがあるため、粘土の形を整えるときには上から布を被せておく。 	粘土板 ろくろ 型枠 石膏型 布 ドライヤー
竹園君(置物づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土量のグラム数等を細かく手順表に提示しておく。教師が見本を作っておく。 ・1日の目標数を確認し、時間と丁寧さを意識して取り組むようにする。 ・作業日誌のやりとりを通して、作業態度や1日の活動を振り返る機会をつくる。 	粘土板 計量器 型枠 どべ 手順表 道具カゴ
浦上君(小鉢づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業台の見える位置に手順表を提示しておく。 ・教師が近くで見守るようにし、難しい工程は一緒に取り組むようにする。 ・教師への報告を手順表に入れておき、報告を意識できるようにする。 ・時間いっぱい作業に取り組めるように粘土再生の活動を準備しておく。 	型枠 粘土板 石膏型 ろくろ どべ 竹串 道具カゴ
濱栗さん (ランプシェードづくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・立位での作業がしやすいように、作業台の高さを調節しておく。 ・「個できたら報告に来る」等、報告のタイミングを明確に伝え、意識できるようにする。 ・丁寧な作業を意識できるように、完成したらできあがり教師と一緒に確認する場面をつくる。 	型枠 石膏型 粘土板 なめし革 筆
前元君(絵付けのデザイン考案)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と体調を確認しながら、休憩を入れながら進める。 ・デザインを描きやすいように台の高さや角度を調整する。 ・デザインを考える上でヒントになるような写真集やイラスト集等を準備する。 	紙、ペン イラスト集

10時45分 (窯業棟)	松川君(器づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライヤーを自分で操作できるように、スイッチを用意する。 ・一人でするところ、教師と一緒に協力してするところなど、それぞれの分担を確認する。 ・時間を意識して作業できるよう、近くに時計を準備し、時計をみて作業するように声をかける。 	金枠・板 手動ろくろ タンポ 器の型 ドライヤー 時計
	田盛君(小皿づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・田盛君ができるだけ自分で取り組めるよう、補助具等を用意する。難しい工程は教師が手を添えるなどして、一緒に取り組むようにする。 ・休憩時間を適宜とり水分補給と気分転換ができるようにする。 ・一つ製品を作り終えたら、「上手だね」「がんばったね」と十分に誉め励ますことで、製作への意欲を高める。 	運搬用カゴ 計量器 型抜き枠 丸皿石膏型 粘土板 木槌 ろくろ タンポ ドライヤー
	清見君(皿づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・見られていること、気にかけていることを感じ、安心して取り組めるように適宜声かけを行う。 ・頑張ったこと、目標の達成度を振り返る時間を設け、一緒に確認しながら次回の作業への参加・製作への意欲を高める。 	手順表 粘土板 型トレイ へら、タンポ ナイフ 櫛(模様づけ)
11時20分 (窯業室・窯業棟)	3 掃除 出来高記入	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進めることができるように、それぞれに掃除の手順を伝えておく。 ・自分の出来高を黒板に記入し、教師と一緒に目標の振り返りを行う。 	モップ 箒、ちりとり 台拭き
11時35分 (全員 窯業室)	4 終わりの会 ・出来高発表 ・感想発表 ・先生より ・あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の意欲につながるように、それぞれの頑張りを伝えあい、次回の作業の予告をする。 	
11時40分			

(3) 子どもの様子、ねがい、手だて

窯業室

生徒名	単元のねがい	生徒の様子	本時のねがい	手だて
金田裕君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って作業に取り組み、基本的な作業態度を身につける。 ・自分の仕事、役割に責任をもって、最後までやり遂げる。 ・手順に従って、 	活動に見通しが持てないときや思い通りにいかないときは、不適応な行動をとったり、トイレにこもることがあるが、見通しが持てると、手順通りに作品をつくり、最後まで活動に参加することができ	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って最後まで授業に参加してほしい。<u>生</u> ・手順に沿って、丁寧に皿を作してほしい。<u>働</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して、前日からスケジュールを確認しておき、朝の会で今日の活動内容と目標個数を一緒に確認する。 ・本人と相談しながら手順を決めたり、必要に応じて手順カードを作成したりする。

	丁寧な作品をつくる。	る。また、製作時に粘土に水を付けすぎることがある。		
岩井康介君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 相手に自分の意思を伝えたり報告をしたりする。 身だしなみを整えて開始時間に着席する。 力加減に気をつけて粘土を触る。 	わからないことがあると、手をとめて待っているときがあるが、尋ねると応えることができる。ゆっくりではあるが、流れに沿って作業を進めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 粘土が足りないときや、完成したときには「できました」等の報告をしてほしい。関 印をつけた場所に、粘土を付けてほしい。働 	<ul style="list-style-type: none"> 何とさえいいうのか机に掲示しておく。また、自分から報告するように伝えて待つ。 石膏型にマジックで印をつけておき、粘土を貼る位置を示す。
・田大志君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じた話や言葉遣いをする。 必要な場面で適切な報告をする。 細かいところに気をつけて丁寧に作品をつくる。 	授業中に関係のない話をするところがあるが、教師が話をするとやめて作業にうつることができる。また、休憩をとらず、集中して最後まで作業に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 「できました」「確認をして下さい」等、正しい言葉遣いで必要な場面で報告してほしい。関 カッターを垂直に入れて粘土を切り、粘土の厚さに気をつけて丁寧に製作してほしい。働 	<ul style="list-style-type: none"> どのような場面にどのような言葉遣いで報告すればいいのか事前に伝えておく。 実物を使ってとxの例を示す。また、製作途中で報告する場面を決めて、教師が様子を確認をする。
井・田彰君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 目標数を決めて製作に取り組む。 自分から教師に報告する。 	立位での作業を自分から希望する等積極的な場面が見られ始めている。報告するタイミングを事前に伝えておくと、小さい声だが、自分から報告にきている。	<ul style="list-style-type: none"> 作業時間を考えて、自分で目標数を設定してほしい。描 完成時には、相手に聞こえる声で報告してほしい。関 	<ul style="list-style-type: none"> 場の設定を工夫することで、集中して作業に取り組む環境をつくる。 授業開始時に目標数を尋ね、目標を意識して製作できるようにする。報告するタイミングも事前に伝えておく。 日誌のやりとりを通して、作業態度を振り返る機会をつくる。
大木淳平君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って、落ち着いて作業に取り組む。 活動表に沿って、準備・作業・片付け・掃除の流れを自分で確認しながら取り組む。 	作業に見通しがもてない時には気持ち不安定になることがあるが、見通しが持てると、最後まで集中して作業に取り組むことができる。活動が終わる毎に報告をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容を理解して、落ち着いて作業に取り組んでほしい。生 活動表に沿って準備・作業・片付け・掃除の流れを自分で確認しながら取り組めるようになってほしい。関 	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容や活動の流れを確認できる表を用意する。 一人で準備ができるよう、準備する道具の写真を用意する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・力加減に気を付けながら、作品作りに取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・力加減に気を付けながら、丁寧に作品作りをしてほしい。【働】 	<ul style="list-style-type: none"> ・力加減などが難しい作業は、要領が分かるまでは教師が手本を示したり、教師と一緒に取り組んだりする。
山下悠伸君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた場面で報告をする。 ・小皿を3枚作る3分休憩、の流れで作業時間いっぱい作業に取り組む。 ・自分で道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い時間続けて作業をすると、道具で遊んでしまうことがある。しかし、作業を短い時間で区切り、休憩を挟むと、継続して作業ができることが増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた場面で自ら報告をしてほしい。【関】 ・「小皿を3枚作る - 3分休憩」を繰り返し、継続して作業ができる時間を増やしてほしい。【働】 ・見本の写真を見ながら自分で道具を準備してほしい。【働】 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告をする場面が分かるような表を用意する。 ・作業時間や休憩時間の終了が分かるよう、タイマーを準備する。 ・一人で準備ができるよう、準備する道具の写真を用意する。
浦上直太君 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・1日に3枚を目標に時間いっぱい作業に取り組む。 ・手順を自分で確認しながら、できるだけ少ない支援で小鉢作りに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作への意欲が高く、自分から道具を準備する姿が見られる。 難しい工程や何をすればいいかわからないときは、声かけがあれば教師に尋ねることができてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の作業時間で2枚の小鉢を丁寧に作ってほしい。【働】 ・手順表を確認しながら製作に取り組み、完成時は自分から教師に報告してほしい。【関】 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業台に手順表を提示しておき、確認しながら製作できるように準備しておく。 ・手順表に教師への報告も入れておき、意識できるようにする。 ・時間いっぱい作業できるように、製作以外の活動を準備する。
山森健作君 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業活動に参加する時間を少しずつ増やしていく。 ・窯業班の一員として係の仕事に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 水回りの水滴を拭き取るうとすることがあったが、作業内容と作業場所を固定することで、次第に作業する時間が増えている。 方角を指さししてもらいながら、ゴミ捨て場まで行き捨てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使う道具の準備、片付けをしてほしい。【働】 ・声かけなどしてもらいながら、少しずつ作業する時間を増やしてほしい。【働】 ・毎回同じ手順で、午前2つ、午後1つ以上のパスタ皿を作してほしい。【生】 	<ul style="list-style-type: none"> ・使う道具はカゴで一つにまとめておく。 ・途中の中断が長いときは、声かけや指さし、手の動きを模倣するなどして、活動を促すようにする。
竹園友貴君 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがりと、製作に要する時間を意識して丁寧に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任感が強く、時間いっぱい丁寧に作業に取り組むことができてきている。 わからないことや難 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の作業時間で3セットの置物を丁寧に作ってほしい。【働】 ・周囲の言動を気にせず、製作に集中してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい手順表を準備し、場の設定を工夫することで、集中して製作できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことや難しいときは、自分から相談する。 	<p>しいことを教師に伝えることが苦手だが、報告は欠かさず行うことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> い。働 ・困ったことがあれば、自分から教師に相談してほしい。関 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子を見ながら適宜声かけを行い、報告や相談しやすい環境をつくる。
濱栗梓さん (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後を意識し、立位での作業に取り組む。 ・報告、連絡、相談を適切な声の大きさと自分から行う。 ・販売する製品ということを意識して、丁寧に作る。 	<p>立位での作業に慣れていないこともあり、疲れを表に出すことが多いが、立位での作業をする時間が長くなってきている。声が小さかったり、コミュニケーション場面でごまかしたりすることもあるが、班長として責任をもって取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間いっぱい立位での作業に取り組んでほしい。働 ・報告、連絡、相談を適切な声の大きさで行ってほしい。関 ・粘土の硬さを考えながら製品を作ってほしい。描働 	<ul style="list-style-type: none"> ・立位で作業がしやすいように台の高さを調整する。 ・適宜声かけを行い、適切な声の大きさでできたときには賞賛する。 ・粘土の硬さを一緒に確認しながら制作し、必要なときは相談するように声かけを行う。
前元秀幸君 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力でできる範囲で取り組む。 ・体調などに留意し、必要なときに自分から相談をする。 	<p>自分で考えたデザインや色遣いで絵付けをすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができる範囲で作業に取り組んでほしい。関楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・描きやすい素材のペンや台、デザインのヒントになるようなイラスト集を準備する。

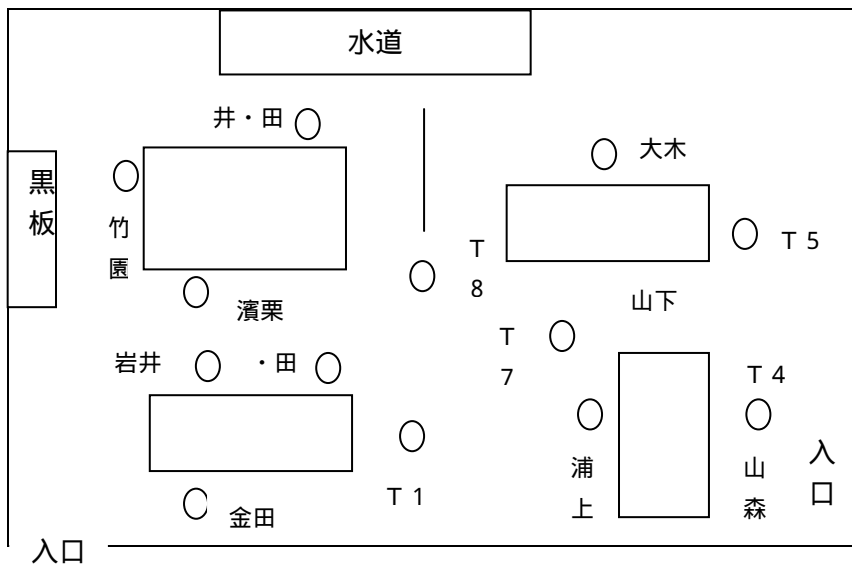
窯業棟

松川元哉君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業工程を丁寧にを行う。 ・時間を守って作業に取り組む。 	<p>自分の意図しない動きのため、微妙な動きが難しいところはあるが、いろいろなことを自分でやろうとする意志は高く、それぞれの作業工程を積極的に取り組むことができる。また、体力の続く限りは、集中して作業をすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・型抜きや乾燥など、自分に任された工程をゆっくり丁寧にやってほしい。働 ・残り時間を考えながら、作業に取り組んでほしい。生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライヤーを自分で操作できるように、スイッチを用意する。 ・一人でするところ、教師と一緒に協力してするところなど、それぞれの作業を分担する。 ・作業台の見えるところに時計を置いておく。
田盛真汰君 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで作業に取り組む。 	<p>昨年度からタタラ機を使った丸皿作りに取り組んでいる。「これを持って行くよ」や「次は何をする」と声かけすると、自分から粘土運びや木槌を使った型抜きをすることができつつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程を理解し、できるだけ自分から皿作りに取り組んでほしい。描働 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程を理解できるよう1学期や昨年度の工程を取り入れる。 ・模様型抜き用の補助具を用意する。 ・乾燥工程では、ドライヤーを固定し乾燥しやすいようにする。 ・がんばりを十分に賞賛

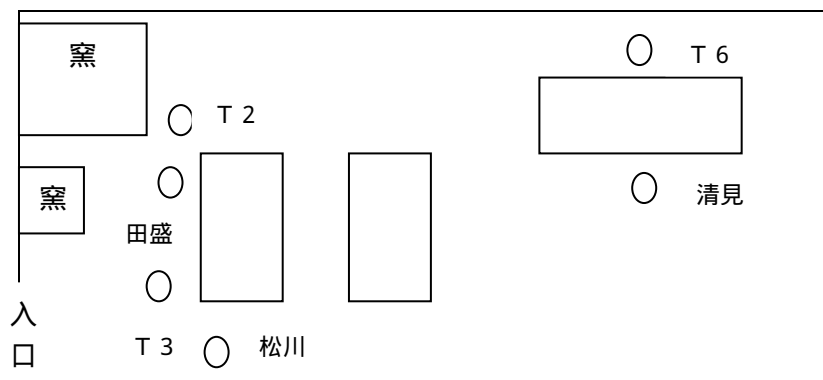
		ある。		し作業への意欲を高める。
清見一雄君 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡、相談を自分から行う。 時間いっぱい作業に取り組む。 卒業後の働く生活について考えを深めている。 	<p>情緒不安定なときは、作業活動に参加することができない時があるが、自分の気持ちを担当教師に伝え、相談することが増えてきている。</p> <p>話が止まらなかったり、大きな声を出したりすることもあるが、始めた作業は最後まで取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちが落ち着かないときは、自分から相談をしてきてほしい。関 一人で作業の準備をしてほしい。働 製作手順を理解し、わからないことや難しいところを相談してほしい。関働 	<ul style="list-style-type: none"> 作業前の本人の様子を確認し、本人が声をかけやすいようにする。 作業に必要な準備物の写真をカードに記しておく。 製作手順表を準備し、適宜一緒に確認をしながら進める。

(4) 場の設定

窯業室



窯業棟




(5) 教材・教具等の工夫

<p style="text-align: center;">出来高表</p> 	<p style="text-align: center;">用途等</p> <p>各生徒ごとに枠があり、黒板に掲示してある。前日と当日の出来高が一目見てわかるようになっている。</p>
<p style="text-align: center;">個人目標</p> 	<p style="text-align: center;">用途等</p> <p>自分の机に、それぞれ目標が掲示してあり、常に意識して活動するようになっている。</p>
<p style="text-align: center;">手順書</p> 	<p style="text-align: center;">用途等</p> <p>終わったらめくる形式、縦書き、横書き等生徒に応じてわかりやすい手順書を作成している。</p>
<p style="text-align: center;">印花押し補助具、粘土乾燥</p> 	<p style="text-align: center;">用途等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土を乾燥しやすいようにしている。指先の巧緻性の向上を目的に、あえて片切りスイッチを使用している。
<p style="text-align: center;">模様つけ補助具</p> 	<p style="text-align: center;">用途等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皿の縁を均等な力で押すことができる。 ・一度で皿の模様をつけるようになっており、指で縁をかたどる力加減の難しい工程を代用できる。

事例

【高等部2年生 竹園さんの様子】

生徒について		
卒業後の姿 (将来の生活についての希望)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労をめざし、毎日働く生活を送りたい。 ・自立した生活を送りたい。 	
年間のねがい	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさに気をつけ、やさしい言葉遣いができる。 ・目標に向け一人で準備や作業に取り組む。 ・衣類たたみ、整理整頓、洗濯が一人で行える。 	
単元でのねがい		
関わる力	・やさしい言葉遣いで話をする。困ったとき、わからないときに自分から尋ねる。	
描く力	・作った製品が誰かの役に立っていることを知る。	
求める力		
働く力	・販売することを意識して、丁寧な作業を心がける。時間を意識して作業を行う。	
生活する力	・作業終了時に窯業室の掃除や、作業道具入れの整頓を行う。	
楽しむ力		
本単元の生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の言動が気になることはあるが、自分の製作活動に集中できつつある。 ・難しい工程や困ったときに教師へ相談することは難しいが、完成時の報告は欠かさず行うことができる。 ・これまでの販売会を参考に、季節にあった製品の需要が高いことに気づき、季節の置物(ひな人形、こいのぼり)を製作することを思いついた。手順表を確認しながら丁寧に製作することができている。 ・目標数の達成に気をとられ、掃除時間まで製作が超過することがあるが、掃除や道具の片付けは作業時間内に終わることができる。 	
活動内容	手だて	活動での様子
1学期～2学期(販売会前) ・カップの製作   納品の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の完成度を教師と一緒にチェックすることで、細かい点や丁寧さを意識できるようにする。 ・きれいに仕上がったものを賞賛し、製作の意欲を高める。 ・注文者への接客・納品・会計を本人が直接行い、作った製品がどう役に立っているのか知る機会をつくる。 ・周りの生徒の声などが気になり集中できない時は、活動の場所を移して対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一通りの手順を覚え、最後まで作業に取り組むことができた。 ・粘土の固さを調整し、製品の縁が曲がらないように丁寧に整える姿があった。 ・注文者への納品の際は、緊張が見られた。模様や形の指摘を受け、納得いかない様子があったが、お客様の意見として受け入れ、ニーズを知ることができた。 ・周囲の不真面目な言動が気になり、集中が途切れることがあったが、活動場所を移して環境をかえることで、切り替えることができた。
2学期(販売会后) ふれあいバザーにむけて ・置物(ひな人形、こいのぼり)の製作   場の設定  手順表	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ大きさ、同じ形に製作できるよう、粘土のグラム数等を細かく示した手順表を準備する。 ・製作活動の場所を工夫し、集中できる環境をつくる。 ・1日の目標数を最初に教師と確認し、個できたら報告というように、報告するタイミングを明確しておく。 ・作業日誌のやりとりを通して、言葉遣いや返事報告、出来高等を確認する機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回手順表を確認しながら、丁寧に製作することができている。 ・前回の出来高を参考に、毎時間の目標数を考え、教師への報告も欠かさず行うことができています。 ・周囲の不真面目な言動が気になり、集中が途切れることもあるが、徐々に自分の製作活動に集中することができてきた。 ・日誌を毎回欠かさず提出し、教師と一緒に1日の作業態度や出来高等を振り返り、その日の反省を次回の目標として挙げるができています。

平成23年度 高等部「作業学習（農芸班）」指導案

単元「天養ふれあいバザー」

日 時 : 平成23年12月9日(金)
10:40～11:40

場 所 : 晴天時:玄関前農場、農芸作業棟
雨天時:農芸作業棟

生 徒 : 10人(1年5人 2年3人 3年2人)

指 導 者 : 教 諭 中川 太志 (T1) 教 諭 木下 博雄 (T2)
教 諭 藤井 さおり (T3) 講 師 渡辺 洋介 (T4)
実習教師 福井 祐二 (T5) 非常勤講師 原田 幸子 (T6)

本日の授業について

農芸班では2月の「天養ふれあいバザー」や来年に向けて、野菜や花の栽培に取り組んでいます。「みんなと協力して、お客様に喜んでもらえるようなおいしい野菜やきれいなお花を愛情を込めて作ろう!」という目標を立て、愛情をたっぷりそそぎながら大事に育てています。

本日の授業では、二つの班にグループ分けし、1班は畑の整備、雨天時にはEMぼかし作りを、2班は天候にかかわらず、花の鉢替えに取り組めます。生徒一人一人が作業内容を理解し、意欲的に活動する姿や自分が担当した仕事に集中して取り組む姿、また、報告、連絡、相談を行いながら作業に取り組む様子を見ていただき、御意見、御感想等をお聞かせいただきたいと思います。

熊本県立天草養護学校

1 単元「天養ふれあいバザー」

2 単元について

(1) 単元について

<農芸班メンバー>

今年度より農耕班から農芸班に名称が変わり、野菜だけではなく花の栽培も始めた。1年生5人、2年生3人、3年生2人の生徒10人と教師6人のメンバーである。ほとんどの生徒が農作業の経験が少なく、初めて行う作業や初めて使う道具が多く、作業を実際に行う中で新しい発見をすることが多い状況である。生徒たちの中には、農作業が大好きな生徒、様々な仕事に興味関心を持って取り組む生徒、自分の得意なことを生かして作業に取り組むことができる生徒など様々である。今までの販売会を通して、自分たちが育てた野菜や花をお客様に買っていただく喜びを感じ、達成感や充実感を味わうことができた。生徒一人一人が、将来の就労や生活に向けて考えながら、自分たちの役割を責任持って果たし、協力して作業学習に取り組んでいる状況である。

<天養ふれあいバザーに向けて>

4月に、生徒全員で「みんなと協力して、お客様に喜んでもらえるようなおいしい野菜やきれいなお花を愛情を込めて作ろう!」という目標を決めた。

1学期は、カボチャ、タマネギ、インゲンなどの野菜の栽培と収穫を行った。また、マリーゴールド、サルビア、ペチュニアなどの花を栽培し、7月のふれあいバザーで販売した。

2学期は、畑の区割りや畝づくりから始め、大根、ピーマン、白菜、キャベツ、レタスや葉ボタン、多肉植物などの栽培、収穫を行い、「天養まつり」で販売した。また、生育期間の関係で「天養まつり」に出せなかったキャベツ、ブロッコリー、ニンジンなどの野菜やノースポール、葉ボタンなどの花を、11月30日にサンリブ本渡店で別途「販売会」を実施した。

2月のふれあいバザーに向けては、整地、土作り、畝作り、植え付け、鉢替え、追肥、除草など様々な作業に取り組む。一人一人が自分の役割を理解して、目標達成に向けて協力して作業に取り組み、1年間のまとめとして達成感や充実感、ふれあう喜びをさらに感じる「ふれあいバザー」にしてほしいと願っている。

<はたらく力と意欲を高めて>

「土を耕し、種をまき、芽が出て、肥料や水を施し、成長し野菜や花ができる」という作物を育てる喜びは作物栽培の最大の魅力である。農芸班ではこのことを基本にしながら、整地、土作り、畝作り、種まき、植え付け、鉢替え、追肥、土寄せ、収穫、販売といった一連の作業に取り組むことで農作業やはたらくことの基本的な知識や技能の習得を図る。また、これらの作業を通して自分の役割を理解し、仲間と協力しながら行うことで、はたらく力と意欲を高めてほしいと願っている。さらに、「ふれあいバザー」では愛情を注いで作った野菜や花を販売することによってお客様に喜んでいただき、そして、この一連の流れが収入にもつながることなど、一つのことを成し遂げる充実感や達成感を積み重ねることによって、働くことの楽しさや喜びを育んでほしいと願っている。

<一人一人の力を生かして>

2月の「天養ふれあいバザー」までに野菜や花が生育し、生徒が最も効率よく作業に取り組めるように、作業内容の分担やグループ分けを行い、ひとつひとつの作業にしっかり考える時間をつくり、内容や方法、道具の使い方など理解できるようにしている。

整地、土作り、畝作り、種まき、植え付け、鉢替え、追肥、土寄せ、収穫、販売などの一連の作業に取り組む中で、生徒一人一人の実態に応じた作業を準備した。

毎日の作業内容は野菜や花の生育状況や天候に応じて異なることが多いので、各時間、見通しを持って作業に臨めるようにその日の作業内容を記し、各作業場所で、ホワイトボードを使って、図示したり、手本を見せてわかりやすく説明を行っている。また、日々異なる作業内容においても、正確な作業が行えるよう「報告、連絡、相談」を徹底して行うようにしている。

(2) キャリア教育との関連

能力	関係する活動・場面
関わる力	場に応じたあいさつ・返事・言葉遣い・報告 気持ちのコントロール お客さんとのコミュニケーション
描く力	目標の設定 見通しを持った作業
求める力	自己選択・決定 作業状況に応じた判断
働く力	持続した作業 準備・後片付け 安全な道具の使用
生活する力	場に応じた服装や身だしなみ お金の計算 計画に沿った活動
楽しむ力	作業の幅を広げる・深める

3 単元のねがい

- ・自分の役割や作業内容を理解し、集中して作業に取り組んでほしい。
- ・「天養ふれあいバザー」に向けて、みんなで協力して取り組んでほしい。
- ・「天養ふれあいバザー」では、1年間のまとめとして達成感や充実感、ふれあう喜びをさらに感じてほしい。

4 単元の計画

(1) 単元の計画

ア 単元活動の進め方

- ・最初の授業で、「ふれあいバザー」に向けての概要と農芸班で栽培する野菜や花を写真で確認し、見通しを持って意欲的に作業ができるように作付け・栽培計画を説明する。
- ・その日の役割や活動内容が分かるように、ホワイトボードに記入し、始めの会の時に説明を行い確認する。
- ・生徒の実態に応じた作業を用意する。
- ・「ふれあいバザー」への意欲や期待が高まるように「チラシ」や「ポスター」を作成し、チラシ配りを計画する。
- ・雨天時は土作りや花の鉢替え、EMぼかしなど作業工程の状況に応じて作業棟内で行える作業を用意する。
- ・報告会では、目標とした売上数や金額が達成できたか、また、お客さんからの声を報告できるようにする。

イ 場の設定や教材・教具等の工夫

- ・作業を仕事としてとらえる第一歩として出勤・退勤確認ボード（ネームプレート）を用意する。
- ・出勤・退勤確認ボードの上に出勤時、退勤時のあいさつを掲示することで、あいさつを徹底できるようにする。
- ・栽培している野菜がわかるよう畑に野菜の写真カードを立てておく。
- ・作業棟へ入室後、ホワイトボードを見て、その日に使用する道具や材料を自分たちで準備できるように写真カードを貼っておく。
- ・作業内容に応じて、グループ分けや係分担を行い、生徒が作業を行いやすいようにする。
- ・作業内容や今月の目標を明確にし、見通しを持って取り組むことができるようにする。
- ・生徒の実態に応じて、見通しが持てるようにできるだけ同じ内容の作業を準備する。
- ・生徒が集中して作業に取り組めるように、係分担や作業場所などの場の設定に配慮する。

ウ 教師のかかわり方

- ・作業棟への入退室、始業、終業時のあいさつ、指示後の返事、作業終了時の報告、疑問点への質問確認を徹底するよう促す。

- ・必要に応じて水分補給や休憩の時間をとり、生徒一人一人の体調面に配慮する。
- ・一人一人の生徒がその日の作業内容や役割を理解し、達成できるように声をかけたり一緒に取り組んだりする。
- ・安全な道具の使用と管理に配慮する。

(2) 日程計画

週	月日	活動(作業)内容	備考
第1週	10/18~21	ふれあいバザーに向けての概要説明、グループ分け ワラ切り、鉢替え、育苗管理	
第2週	10/24~28	畑整地・天地返し、土作り・鉢替え、育苗管理	
第3週	10/31	畑整地、鉢替え、育苗管理	
第4週	11/21~11/25	畑整地、鉢替え、育苗管理	
第5週	11/28~12/2	収穫、出荷準備、販売会 畑整地、土作り、育苗管理	11/30(水) 販売会
第6週 ~	12 / 5 ~	タマネギ植え付け、育苗管理 畑整地・天地返し、鉢替え	本時
第7週	12 / 14	E Mぼかし作り	
第8週 ~	1月 ~	追肥 ポット移植、鉢替え、育苗管理	
第12週	2月	ふれあいバザー準備、販売、報告会	

5 本時について

(1) 本時のねがい

- ・本日の作業内容や自分の役割を理解し、協力して取り組んでほしい。

(2) 本時の展開

(晴天時)

時間	活動(作業)内容	支援上の留意点	準備物
10時40分	1 作業着に着替え、長靴をはき、作業棟に来てあいさつを行い出勤ボードの名札を黒字に返して入室する。 2 作業の準備物を用意する。 3 始めの会を行い、一人一人の作業内容を確認する。 進行：班長 田代君 4 準備物を確認し、各作業場所へ移動する。	・あいさつカードを出勤退勤ボードの上に掲示しておく。 ・教師も生徒と同じようにあいさつ、出勤ボードの名札も黒字に返して入室する。 ・ホワイトボードに写真カードを掲示し、準備物を確認できるようにする。 ・始めの会の進行表を用意する。 ・本日の作業内容をホワイトボードに書いておく。 ・作業のグループ分けを行う。 ・準備物を確認し、分担して運ぶように声をかけて促す。	あいさつカード 出勤退勤ボード 写真カード 進行表
10時50分	5 (1班)《天地返し》 坂田さん、兵田君 吉本君、松山君 大川さん、丸山さん T1、T5、T6	・ホワイトボード(1)に本時の手順を記し、作業内容について説明を行う。また、説明後に教師が手本を示す。	ホワイトボード(1)

	<ul style="list-style-type: none"> メジャーを使い畑の長さを測り、区割りする場所に印棒をたてる。 区割りした各場所の担当を決める。 天地返しを行い、土が硬くなっている部分をスコップで掘り起こす。 <p>(2班)《デージーの鉢替え》 田代君、津川君 T2、T4</p> <ul style="list-style-type: none"> 4.5号ポットにボラ土と用土を適量入れる。 <p>永田君、三田君 T2、T3</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉢替え ボラ土と用土の入った4.5号ポットにデージーの鉢替えを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> メジャーや印棒の使用方法を確認する。 長さや区割りする場所をホワイトボード(2)に記し、確認する。 区割りした場所にラインを引き、番号札を立て担当場所を分かりやすくする。 スコップの使い方や作業手順を確認しながら、適宜説明や声かけを行う。 状況を見ながら、休憩や水分補給の時間をとる。 手順表を使い、作業内容について写真などを用意し説明を行う。また、説明後に教師が手本を示す。 ボラ土を適量入れるカップを準備する。 用土は一握り入れることで適量とし、最初は教師が手本を示す。 鉢替えが行いやすいよう、3号ポットの大きさに型を取るようにする。 花苗が傾いたり、倒れたりしないように声かけをする。 花苗の傾きとウォータースペースの確認を教師と行う。 状況を見ながら、休憩や水分補給の時間をとる。 全員で協力して取り組めるよう、声かけを行う。 本で行った作業内容を確認する。 次回の作業内容を伝える。 	<p>メジャー 印棒</p> <p>ホワイトボード(2)</p> <p>ラインカー 番号札</p> <p>スコップ</p> <p>手順表 デージー</p> <p>4.5号ポット ボラ土 用土 計量カップ</p> <p>3号ポット</p> <p>進行表</p>
11時20分	6 作業終了 道具の後片付けを行う。		
11時35分	7 「終わりの会」を行い、一日の作業内容を振り返る。 進行：副班長 吉本君		

(雨天時)

時間	活動(作業)内容	支援上の留意点	準備物
10時40分	1 作業着に着替え、長靴をはき、作業棟に来てあいさつ 出勤ボードの名札を黒字に返して入室する。	<ul style="list-style-type: none"> あいさつカードを出勤退勤ボードの上に掲示しておく。 教師も生徒と同じようにあいさつ、出勤ボードの名札も黒字に返して返して入室する。 	あいさつカード 出勤退勤ボード

10時45分

<p>2 作業の準備物を用意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに写真カード掲示し、準備物を確認できるようにする。 	<p>写真カード</p>
<p>3 始めの会を行い、一人一人の作業内容を確認する。 進行：班長 田代君</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始めの会の進行表を用意する ・本日の作業内容をホワイトボードに書いておく。 	<p>進行表</p>
<p>4 準備物を確認し、各作業場所へ移動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備物を確認し、分担して運ぶように声をかけて促す。 	
<p>5 (1班)EMぼかしづくり (1)液作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計量しやすいように、ペットボトルの容器、計量スプーンを準備する。 	<p>バケツ EM1 糖蜜</p>
<p>係：吉本君・T5 ・お湯、EM1、糖蜜の分量をそれぞれ量り、バケツに入れ混ぜ合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を見ながら一人で作成できるように支援を行う。 	<p>ペットボトル容器 計量スプーン 作成手順表</p>
<p>(2)米ぬかの準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で米ぬかのかたまりがなくなるまで、揉みほぐせるように声かけを行う。 	<p>米ぬか(30Kg) とろ舟</p>
<p>係：兵田君・松山君 大川さん・丸山君 坂田さん T1・T6</p>		
<p>・とろ舟に米ぬかを出し、かたまりがなくなるまで手で揉みほぐす。</p>		
<p>(3)混合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・液を入れたことで「かたまり」ができやすくなることを説明し、全員で米ぬかのかたまりがなくなるまで、揉みほぐせるように声かけを行う。 	
<p>係：全生徒・T1・T5・T6 ・米ぬかに液を入れ、かたまりがなくなるまで、混ぜ合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を見ながら、適宜、休憩を促す。 	
<p>(4)袋詰め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できた「EMぼかし」を袋に詰める方法を示し、適宜声かけを行う。 	<p>ビニール袋 RVボックス</p>
<p>係：全生徒・T1・T5・T6 ・1つのとろ船にあるEMぼかしを2等分し、袋に詰め、空気が入らないように結ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・袋を結ぶ際に、空気が入らないよう最初に教師が手本を示し、必要に応じて支援を行う。 	
<p>・発酵させるため、RVボックスに保管する。</p>		
<p>(2班)《デージーの鉢替え》 田代君、津川君 T2、T4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を使い、作業内容について写真などを用意し説明を行う。また、説明後に教師が手本を示す。 	<p>手順表</p>
<p>・4.5号ポットにボラ土と用土を適量入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボラ土を適量入れるカップを準備する。 	<p>デージー 4.5号ポット ボラ土</p>
<p>永田君、三田君</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用土は一握り入れることで適量とし、最初は教師が手本を示す。 	<p>用土 計量カップ</p>
<p>永田君、三田君</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鉢替えが行いやすいよう、3 	<p>3号ポット</p>

	T 2、T 3	号ポットの大きさに型を取るようにする。	
11時25分	6 作業終了 道具の後片付けを行う。	・花苗が傾いたり、倒れたりしないように声かけをする。 ・花苗の傾きとウォータースペースの確認を教師と行う。 ・状況を見ながら、休憩や水分補給の時間をとる。 ・全員で協力して取り組めるよう、声かけを行う。	
11時35分	7 「終わりの会」を行い、一日の作業内容を振り返る。 進行：副班長 坂田さん	・本日行った作業内容を確認する。 ・次回の作業内容を伝える。	進行表

(3) 生徒の様子、ねがい、手だて

《1班》

生徒名	単元のねがい	生徒の様子	本時のねがい	手だて
坂田優子さん (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な作業にも意欲的に取り組んでほしい。 ・あいさつ、返事、報告を相手に伝える声の大きさで行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力作業や汚れる事などの苦手な作業の時には、嫌な気持ちを言葉や態度に出すことがあるが、任された仕事は最後まで行うことができる。 ・あいさつや返事等の声が小さいときがあるが、その都度確認したり、作業日誌で振り返りを行いながら意識して作業に取り組むことができる。 	《晴天時》 <ul style="list-style-type: none"> ・天地返し作業に意欲的に取り組んでほしい。働 ・相手に伝わる声の大きさであいさつ、返事を行ってほしい。関 	<ul style="list-style-type: none"> ・無駄な力が入らないよう、スコップの正しい使い方を手本を示して伝える。 ・声が小さいときには教師が手本を示し、やり直しを行う。
			《雨天時》 <ul style="list-style-type: none"> ・EM ぼかし作りの作業へ意欲的に取り組んでほしい。働 ・相手に伝わる声の大きさであいさつ、返事を行ってほしい。関 	<ul style="list-style-type: none"> ・手が汚れても洗えば大丈夫なことを事前に伝えておく。 ・声が小さいときには教師が手本を示し、やり直しを行う。
大川真美さん (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順や道具の使い方を覚え、みんなと協力して作業を行ってほしい。 ・あいさつ、返事、報告、相談が確実にできる態度を身に付けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の状況を見ながら、正しい道具の使い方や作業手順を確認し、丁寧に作業を行うことができる。 ・あいさつや返事など忘れることがあるが、声かけをすると意識して行うことができる。 	《晴天時》 <ul style="list-style-type: none"> ・任された範囲の天地返しを効率よく行ってほしい。働 ・あいさつ、返事、作業の報告など大きな声で行ってほしい。関 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に取り組む様子を確認し、適宜スコップの使い方や天地返しの方法を伝える。 ・報告や返事の声が小さい時や忘れていた時には、声かけを行う。
			《雨天時》 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと協力し、手順表に沿って、各工程を責任持って取り組んでほしい。働 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を準備し、確認しながら進めるように促す。
吉本雄太君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちをコントロールし、緊張せず自分の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の变化や苦手なことに対して緊張すること 	《晴天時》 <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで集中し、任された範囲の 	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスして行うことができるように事前に

	<p>に集中して取り組んでほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業手順や道具の使い方を覚え、みんなと協力して取り組んでほしい。 	<p>が多く、よそ見をしたり、他のことを考えたりして集中力が途切れることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ作業や説明、手本を何度も繰り返すことで道具の使い方を覚え、スムーズに作業を行うことができる。 	<p>天地返しに取り組んでほしい。</p> <p>《雨天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> スコップの正しい使い方を覚えてほしい。 <p>《雨天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> 計量などを正確に行い手順表を見ながら手順通りにEM液を作ってほしい。 	<p>行う内容や工程を伝えておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適宜スコップの使い方や天地返しの方法を伝え、手本を示す。 <p>計量がしやすいようにペットボトルの容器、計量スプーン、手順表を準備する。</p>
兵田尚夫君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 説明や指示を理解して作業を行い、報告、確認を確実に行ってほしい。 作業手順を覚え、みんなと協力して作業に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告や確認を時々忘れていることがあるが、作業内容の説明や指示をよく聞いて作業に取り組むことができる。 数回同じ作業を経験すると、作業手順を覚え、周囲に声をかけ、協力しながら作業を行うことができる。 	<p>《晴天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明や指示で分からなかった部分について、その場で質問し、理解した上で作業に取り組んでほしい。 <p>《雨天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなと声をかけ合いながら、かたまりがなくなるまで混ぜ合わせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、作業の行い方や次の仕事は何かを尋ね、考える時間をつくり、理解の程度を確認する。 作業状況を確認し、判断が難しいときには質問相談するように促す。
丸山里奈さん (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方や作業手順を覚えてほしい。 みんなと協力して作業を行ってほしい。 作業終了時の確認のお願いや報告を確実に行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業期間が空いた内容に関しては自信をもって取り組むことが難しいが、何度か経験のある作業に関しては自ら進んで取り組むことができる。 報告を忘れていたり、話す内容を自分で考えたりすることが難しいことがある。 	<p>《晴天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しいスコップの使い方を覚え、天地返しをしてほしい。 カードを見ながら、確認のお願いや報告をしてほしい。 <p>《雨天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなと声をかけ合いながら、かたまりがなくなるまで混ぜ合わせてほしい。 カードを参考にして、確認のお願いや報告をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 天地返しがスムーズに行えるようにスコップを使う時の手足の使い方や力のいれ具合を一緒に確認しながら行う。 報告の際などの台詞を書いたカードを用意する。 作業状況を確認し、判断が難しいときには質問相談するように促す。 報告時などの台詞を書いたカードを用意する。
松山郁也君 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 説明や指示を確実に聞き、自分の役割を理解して丁寧な作業を行ってほしい。 作業終了時の確 	<ul style="list-style-type: none"> 話に夢中になったり、説明を聞かずに自分の思いで作業を終わらせたりすることがある。再度、 	<p>《晴天時》</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業内容を理解し、集中して、任せられた範囲の天地返しをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 話が多かったり、1つの場所に時間をかけすぎたりしている時には、声かけをして作業を促す。

	認のお願いや報告を確実に行ってほしい。	説明や見本を示すと集中して作業に取り組むことができる。 ・確認や報告なしに次の作業へ移ることがあるが、声かけをすると行うことができる。	《雨天時》 ・みんなと声をかけ合いながら、かたまりがなくなるまで混ぜ合わせてほしい。 働	・手順表を準備し、確認しながら作業を進めることができるようにする。
--	---------------------	--	--	-----------------------------------

《2班》

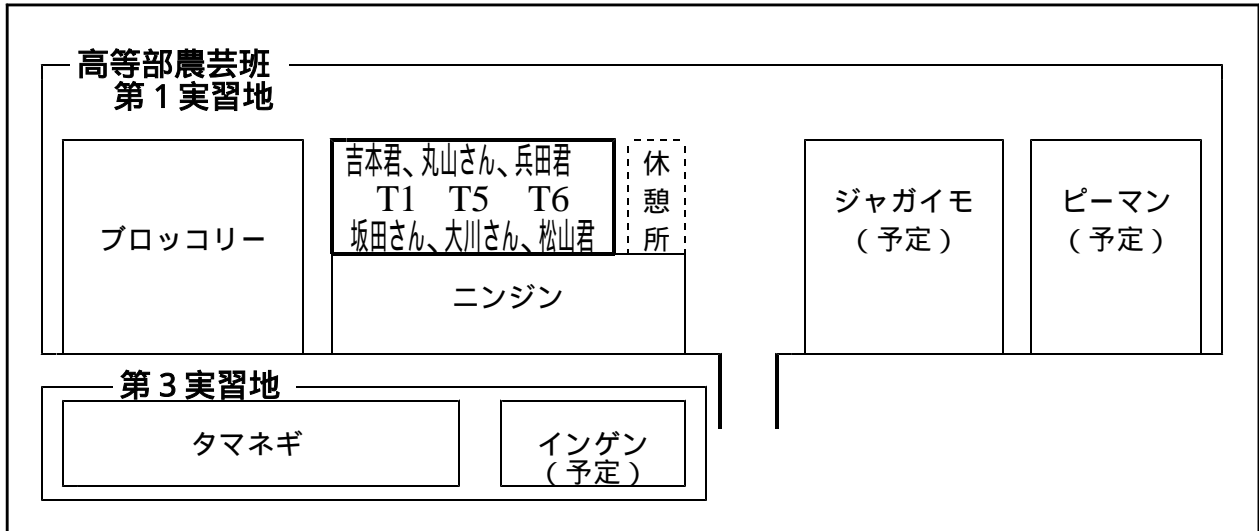
生徒名	単元のねがい	生徒の様子	本時のねがい	手 だ て
田代和男君 (3年)	・ふれあいバザーの販売会に向けてお客様に喜んでもらえるようなきれいな花をつくってほしい。	・ポット洗い、用土づくり、花苗の鉢替えなどの作業に取り組んでいる。鉢替えでは土の量が多くなったりすることがあるが、教師に確認を求めて適量入れることができる。	・鉢にボラ土と用土をそれぞれ適量入れる作業を確実に行ってほしい。働	・鉢の中に入れる1回分のボラ土を計量するカップを用意する。 ・用土の分量は片手一握り分であることを伝える。
永田竜也君 (3年)	・ふれあいバザーの販売会に向けて自分の役割に集中して取り組んでほしい。	・花苗の鉢替え作業では、花苗が倒れたり傾いたりすることがあるが、鉢替えの作業工程を理解して取り組むことができる。	・鉢の中で花苗が倒れたり傾いたりしないように鉢替えをしてほしい。働	・鉢の中で花苗が倒れたり傾いたりしないように型がとれる3号ポットを用意する。鉢替え後に点検、確認を行う。
三田宗吉君 (2年)	・自分の役割を理解し、集中して作業に取り組んでほしい。	・長時間継続して作業に取り組むことは苦手である。しかし運搬作業やポット洗いなど、見通しの持ちやすい作業や、過去に経験したことのあつた作業に、休憩を取りながら取り組むことができる。	・鉢替えの作業を理解し、集中して取り組んでほしい。働 関	・始めに、用土の入れ方等を教師が手本を示して伝える。 ・用土が入れやすいよう、カップを準備する。 ・集中力が途切れた時には、タイムタイマーを使い、5分間休憩を取り、作業に戻るようにする。
津川純平君 (2年)	・落ち着いて作業に参加し、自分の役割に取り組んでほしい。	・長期入院後、10月より作業に参加している。作業着に着替えることが難しかったが、11月中旬より着替えるようになった。ポット洗いなどの役割を、休憩	・ボラ土と用土を適量、4.5号ポットへ入れてほしい。働 関	・集中して作業が行えるよう、場の設定を考える。 ・様子を見ながら、適宜、休憩を取る。 ・鉢の中に入れる1回分のボラ土を計量するカップを用意する。 ・用土の分量は片

	を取りながら自分のペースで取り組むことができる。	手一握り分であることを手本を示して伝える。
--	--------------------------	-----------------------

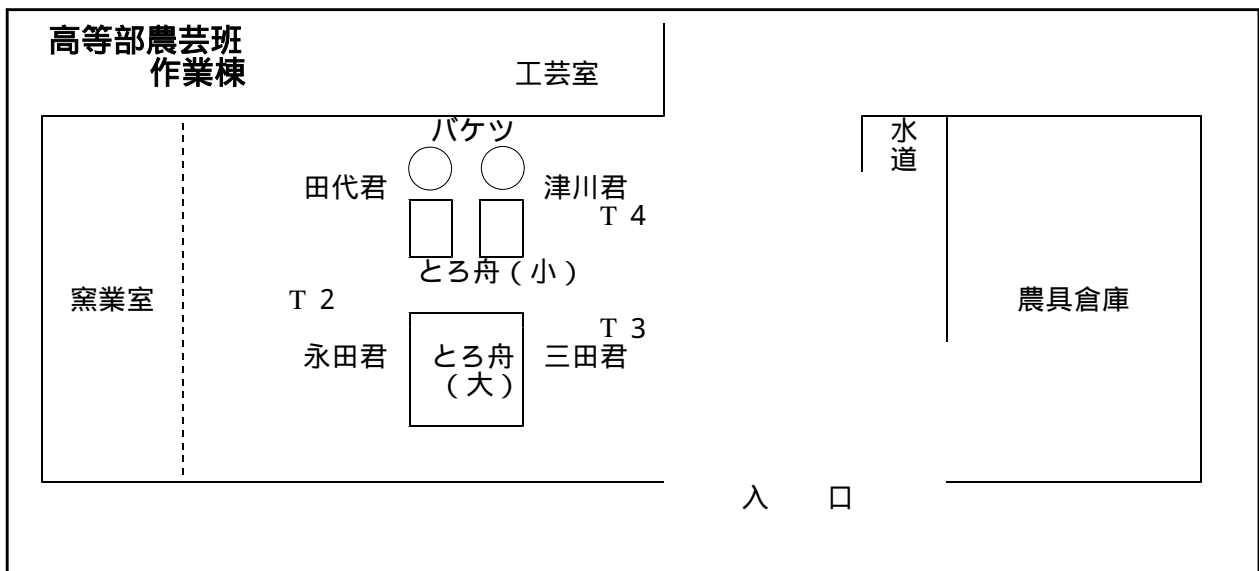
(4) 場の設定

ア 晴天時

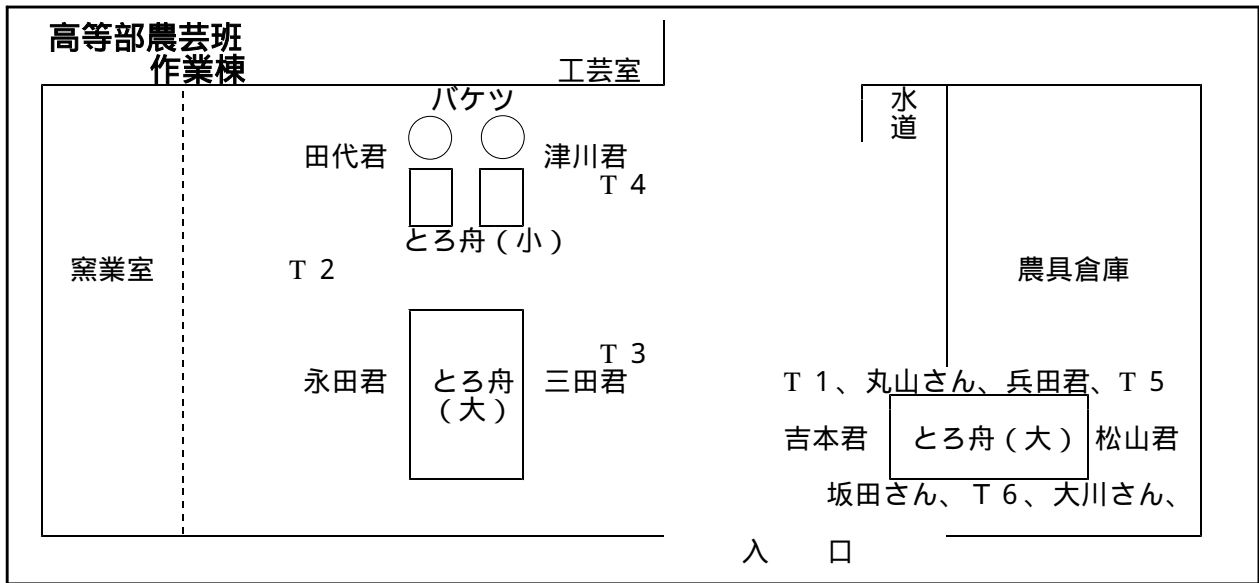
《1班》



《2班》



イ 雨天時



(5) 教材・教具等の工夫

- ・あいさつカード
- ・出勤退勤ボード
- ・準備物写真カード
- ・進行表(始めの会、終わりの会)
- ・EMぼかし手順表
- ・鉢替え手順表

事例

〔高等部1年生 吉本さんの様子〕

		生徒について	
卒業後の姿 (将来の生活についての希望)		<ul style="list-style-type: none"> ・長崎能力開発センターで勉強をしたい。(本人) ・グループホームから通えるところに就職したい。 	
年間のねがい		<ul style="list-style-type: none"> ・説明や指示を聞いて作業内容を理解することができる。 ・自分の気持ちをコントロールすることができる。 ・最後まで集中して作業に取り組むことができる。 	
		単元でのねがい	
関わる力		あいさつ、返事、報告、相談を確実に行ってほしい。 仲間と協力して取り組んでほしい。	
描く力		作業内容を理解し、自分の役割を責任持って取り組んでほしい。	
求める力			
働く力		道具の使い方や作業手順を覚え、集中して最後まで取り組んでほしい。 前向きな気持ちで取り組んでほしい。	
生活する力			
楽しむ力		充実感や達成感を味わってほしい。	
本単元の生徒の様子		<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方や作業がうまくできずに、注意を受けた時には気持ちが沈み、作業が手に付かないこともある。 ・どうすればうまくできるのか考える時間をつくったり、声かけをするなど何度も繰り返し行うことでうまくできることが増え、自信を持って取り組むことができるようになってきている。 ・農作業を好み、自ら進んで準備、作業、片付けに取り組む。 ・場面の变化や苦手なことに対して緊張することが多く、よそ見をしたり、他のことを考えたりして集中力が途切れることがある。 	
活動内容	手だて	活動での様子	
10月 畑の整地 ・天地返し ・鶏糞まき ワラ切り	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や困っている部分には、分かりやすいように手本を示し、説明する。 ・作業内容を理解できるように事前に説明したり、教師と一緒に考える時間をつくるようにする。 ・できたことや頑張ったことに対しての賞賛と今後の課題について声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スコップやクワなどの道具をうまく使うことができずに作業が止まることがあったが、質問や相談を自ら行い、理解して行うことができた。 ・場面の变化や苦手意識があることに対して緊張し、集中できずに、自分の力を発揮できないことがある。 ・考える時間を作ることで、自ら答えを出し、行うことが確認でき、集中して作業を行えることが増えてきている。 	
11月 販売会準備 収穫 ・ブロッコリー ・ニンジン ・キャベツ ・やまいも 販売会	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容が理解できるようにホワイトボードに図示したり、手本を示してわかりやすく説明を行ったりする。 ・疑問点を適宜聞いたり、確認や振り返りを促すことで自信を持って作業に取り組むことができるようにする。 ・できたことや頑張ったことに対しての賞賛と今後の課題について声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方は何度も繰り返し行うことで少しずつ上達し、作業のスピードも早くなり、自信を持って取り組むことができるようになってきている。 ・販売会では、大きな声を出しお客さんに接することができた。状況を見ながら適宜教師に確認を求めながら活動することができた。 	
12月 タマネギ植え付け 畑の整地 ・区割り ・天地返し	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容が理解できるようにホワイトボードに図示したり、手本を示してわかりやすく説明を行い、教師と一緒に考える時間をつくったりする。 ・できたことや頑張ったことに対しての賞賛と今後の課題について声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タマネギの植え付けは、説明を理解し、ひとつひとつ丁寧に苗を植えていくことができた。 ・区割りをするときのメジャーを使うことを苦手としているが、教師や仲間と一緒に行うことで少しずつ目盛りを読んだり、まっすぐメジャーを引っ張ったりすることができるようになってきている。 	